

平成29年度  
山梨県歯科疾患実態調査報告書

---

平成30年4月

山 梨 県

一般社団法人 山梨県歯科医師会

# 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的.....	1
2. 調査期間.....	1
3. 調査対象者の設定.....	1
4. 主な調査項目.....	1
5. 診査基準.....	1
6. 調査票.....	3
<b>II. 調査結果</b> .....	<b>5</b>
1. 被調査者数.....	5
2. う蝕（未処置歯）のある者の割合（永久歯）.....	9
3. 1人平均現在歯数（永久歯）.....	13
4. 現在歯を20本以上有する者の割合（永久歯）.....	16
5. 1人平均喪失歯数（永久歯）.....	18
6. 喪失歯を有する者の割合（永久歯）.....	20
7. 歯周ポケットの状況.....	22
8. 歯肉出血.....	31
9. 歯をみがく頻度.....	35
10. インプラントの有無.....	38
11. 顎関節の雑音を自覚する者.....	39
12. 顎関節に痛みを自覚する者.....	40
13. 現在の歯や口の状態.....	41
14. 歯石の状態.....	45
15. 過去1年間の歯科医院の受診状況.....	49
16. 歯や口の清掃状況.....	52

# I. 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、山梨県の歯科保健状況を把握し、今日まで行われてきた種々の対策の効果について検討を行い、今後の歯科保健事業推進のための基礎資料を得ることを目的とした。

なお、本調査は平成 29 年度口腔保健推進事業の一環として、本県独自の調査方法により実施したものであり、平成 28 年度に実施された全国歯科疾患実態調査（以下、全国調査という）、平成 24 年度山梨県歯科疾患実態調査（以下、前回調査という）と比較ができるよう、これらの方法を参考にした。

## 2. 調査期間

平成 29 年 4 月から平成 29 年 6 月までの 3 か月間。

## 3. 調査対象者の設定

調査期間中に県内の歯科診療所を受診した山梨県民のうち、調査協力に同意を得た 20 歳以上の者を調査客体とした。

## 4. 主な調査項目

- 1) 年齢
- 2) 性別
- 3) 歯や口の状態
- 4) 歯をみがく頻度
- 5) 歯や口の清掃状況
- 6) 顎関節の状況
- 7) 過去 1 年間の歯科検診の受診状況
- 8) 歯の状況：現在歯の状況（う蝕の有無）、喪失歯の状況
- 9) 歯肉の状況：歯肉出血、歯周ポケット
- 10) インプラントの有無
- 11) 歯石の状況

## 5. 診査基準

歯科疾患実態調査との比較ができるように平成 28 年歯科疾患実態調査の診査基準に準拠し、次に掲げる基準に従って診査を行った。

### （1）現在歯

- ① 現在歯は、（i）健全歯（ii）未処置歯（iii）処置歯の 3 種に分類する。現在歯とは、歯の全部または一部が口腔に現れているものをいう。
- ② 過剰歯は含めないこととし、癒合歯は 1 歯として取り扱い、その場合の歯種名は上位歯種名をもってこれにあてる。

(i) 健全歯

- 健全歯とは、う蝕あるいは歯科的処置の認められないものをいう。
- 咬耗、摩耗、着色、外傷、酸蝕症、発育不全、歯周炎、形態異常、エナメル質形成不全等の歯であっても、それとう蝕のないものは健全歯とする。
- 歯質の変化がなく、単に小窩裂溝が黒褐色に着色しているもの、平滑面で表面的に淡褐色の着色を認めるが歯質は透明で滑沢なものは、すべて健全歯とする。

(ii) 未処置歯

● 軽度う蝕 (C i : Caries incipient)

歯冠部のう蝕については、明らかなう窩、脱灰・浸食されたエナメル質、軟化底、軟化壁が探知できる小窩裂溝、平滑面の病変をう蝕とする。また、根面部のう蝕については、病変部をC P Iプローブで触診し、ソフト感あるいはざらついた感じがあればう蝕とする。

● 重度う蝕 (C h : Caries high grade)

重度う蝕とは、歯髄まで病変が波及しているものまたは、それ以上に病変が進行しているものをいう。

(注) 1. 同一歯の歯冠部に2ヵ所以上う蝕のある場合には、病状の進んでいる方をとる。

2. フッ化ジアミン銀 (サホライド) のみを塗布したと考えられる歯は未処置歯とする。

(iii) 処置歯

- 処置歯とは、歯の一部または全部に充填、クラウン等を施しているものをいう。
- 歯周炎の固定装置、矯正装置、矯正後の保定装置、保隙装置および、骨折副木装置は含まれない。
- 治療が完了していない歯、二次う蝕や他の歯面等で未処置う蝕が認められる場合、未処置歯として取り扱う。
- 予防填塞 (フィッシャー・シーラント) の施してある歯については、可能な限り問診して、う蝕のない歯に填塞したものは健全歯とする。明らかにう蝕のあった歯に填塞したものは処置歯とする。
- 根面板は処置歯とする。

(2) 喪失歯

抜去または脱落により喪失した永久歯をいう。ただし、智歯は含めない。

(3) 歯肉の状況

永久歯列について 

7 6	1	6 7
7 6	1	6 7

 の各歯の歯肉の

状況をWHOのC P I (Community Periodontal Index 地域歯周疾患指数) によりC P Iプローブを用いて上顎、下顎とも頬側面 (近・遠心) 及び舌側面 (近・遠心) の4点について以下の基準で診査し、最高コード値を記入する。ただし、同顎、同側の

第1、第2大臼歯については、両歯の最高点を記入する。

[歯肉出血]

- 0：健全 以下の所見が認められない。  
1：歯肉出血 プロービング後10～30秒以内に出血が認められる。  
9：除外歯 プロービングができない歯。  
×：該当歯なし

\*プロービング：歯と歯肉の間隙、歯周ポケットにプローブを挿入して歯肉の入口から隙間の底の部分までの距離を測定することをいう。この測定をプロービング検査という。

[歯周ポケット]

- 0：健全 以下の所見が認められない。  
1：浅いポケット 4～5mmに達するポケット。  
2：深いポケット 6mmを越えるポケット  
9：除外歯 プロービングができない歯。  
×：該当歯なし

注)

- ・ 対象中切歯の欠損の場合、反対側同名歯を診査する。両中切歯が欠損の場合、第1歯・第2大臼歯とも欠損の場合は×を記入する。
- ・ プロービングは、C P Iプローブ先端の球を歯の表面に沿って滑らせる程度の軽い力で操作し、遠心の接触点直下から、やさしく上下に動かしながら近心接触点直下まで移動させる。
- ・ 前回調査では、「歯肉出血」と「歯周ポケット」をまとめて確認していたが、全国調査においてこれらを別項目で確認することとなったため、本調査も同様に実施した。

## 6. 調査票



## Ⅱ. 調査結果

### 1. 被調査者数

被調査者は、平成 29 年 4 月から平成 29 年 6 月までの 3 か月間に、県内の歯科診療所を受診し、調査協力に同意した 20 歳以上の山梨県民は、1531 人であった。その内男性は 618 人、女性は 913 人で、女性の割合が高かった（表 1、図 1）。

前回調査と比べると、総数や男女比（総数 1662 人、男性 659 人、女 1003 人）については大きく変わらなかったが、20～59 歳の割合が 57.0%（総数 948 人、男性 362 人、女性 586 人）から 73.1%（総数 1119 人、男性 448 人、女性 671 人）と 16.1 ポイント増加するなど、若年者の割合が多くなっている。（表 2、図 2）。

20 歳以上で全国調査と比較しても若年者が多くなっている。

表 1 平成 29 年度被調査者数

年齢階級 (歳)	(人)			(% )		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1531	618	913	100.0	40.4	59.6
20～24	107	36	71	7.0	33.6	66.4
25～29	141	61	80	9.2	43.3	56.7
30～34	121	54	67	7.9	44.6	55.4
35～39	155	63	92	10.1	40.6	59.4
40～44	136	52	84	8.9	38.2	61.8
45～49	149	55	94	9.7	36.9	63.1
50～54	166	63	103	10.8	38.0	62.0
55～59	144	64	80	9.4	44.4	55.6
60～64	105	36	69	6.9	34.3	65.7
65～69	155	76	79	10.1	49.0	51.0
70～74	65	24	41	4.2	36.9	63.1
75～79	41	11	30	2.7	26.8	73.2
80～84	23	12	11	1.5	52.2	47.8
85～	23	11	12	1.5	47.8	52.2

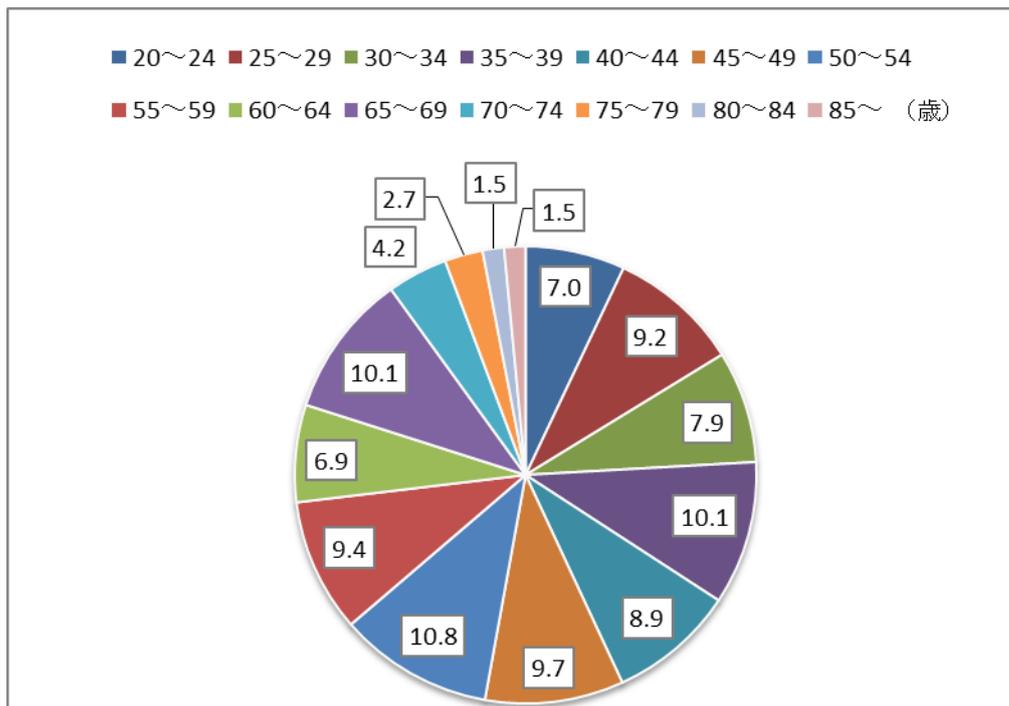


図 1 平成 29 年度被調査者数の割合 (%)

表 2 被調査者数 【比較】

年齢階級 (歳)	平成 24 年			平成 28 年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1662	659	1003	100.0	39.7	60.3
20～24	81	22	59	4.9	27.2	72.8
25～29	89	29	60	5.4	32.6	67.4
30～34	111	44	67	6.7	39.6	60.4
35～39	122	51	71	10.1	41.8	58.2
40～44	130	47	83	8.9	36.2	63.8
45～49	144	60	84	9.7	41.7	58.3
50～54	142	54	88	10.8	38.0	62.0
55～59	129	55	74	9.4	42.6	57.4
60～64	190	93	97	6.9	48.9	51.1
65～69	134	47	87	10.1	35.1	64.9
70～74	124	44	80	4.2	35.5	64.5
75～79	134	65	69	2.7	48.5	51.5
80～84	81	32	49	1.5	39.5	60.5
85～	51	16	35	1.5	31.4	68.6

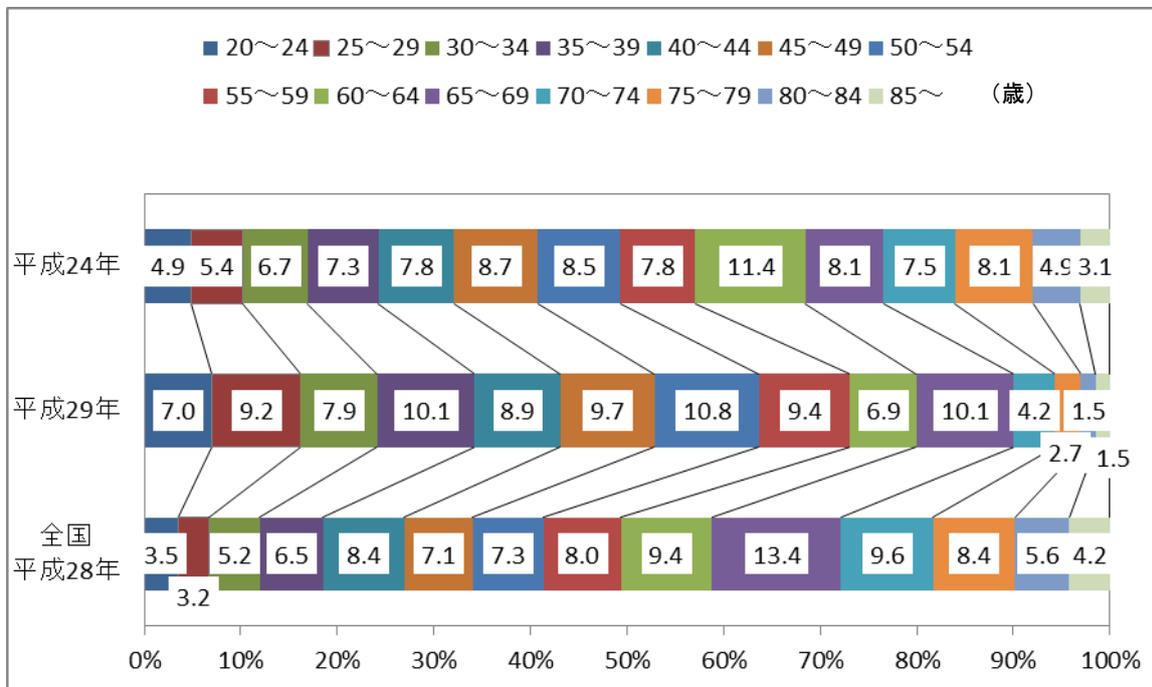


図 2 被調査者数 【比較】

表 3 被調査者数【全国比較】

全国平成28年		(人)			(%)		
年齢階級 (歳)	総数	男	女	総数	男	女	
総数	6278	2868	3410	100.0	45.7	54.3	
1～4	201	100	101	3.2	49.8	50.2	
5～9	311	158	153	5.0	50.8	49.2	
10～14	250	127	123	4.0	50.8	49.2	
15～19	206	96	110	3.3	46.6	53.4	
20～24	186	90	96	3.0	48.4	51.6	
25～29	172	87	85	2.7	50.6	49.4	
30～34	278	114	164	4.4	41.0	59.0	
35～39	346	155	191	5.5	44.8	55.2	
40～44	448	185	263	7.1	41.3	58.7	
45～49	376	161	215	6.0	42.8	57.2	
50～54	390	178	212	6.2	45.6	54.4	
55～59	424	184	240	6.8	43.4	56.6	
60～64	500	224	276	8.0	44.8	55.2	
65～69	710	337	373	11.3	47.5	52.5	
70～74	509	240	269	8.1	47.2	52.8	
75～79	448	206	242	7.1	46.0	54.0	
80～84	300	135	165	4.8	45.0	55.0	
85～	223	91	132	3.6	40.8	59.2	

全国平成28年【20歳以上】		(人)			(%)		
年齢階級 (歳)	総数	男	女	総数	男	女	
総数	5310	2387	2923	100.0	45.0	55.0	
20～24	186	90	96	3.5	48.4	51.6	
25～29	172	87	85	3.2	50.6	49.4	
30～34	278	114	164	5.2	41.0	59.0	
35～39	346	155	191	6.5	44.8	55.2	
40～44	448	185	263	8.4	41.3	58.7	
45～49	376	161	215	7.1	42.8	57.2	
50～54	390	178	212	7.3	45.6	54.4	
55～59	424	184	240	8.0	43.4	56.6	
60～64	500	224	276	9.4	44.8	55.2	
65～69	710	337	373	13.4	47.5	52.5	
70～74	509	240	269	9.6	47.2	52.8	
75～79	448	206	242	8.4	46.0	54.0	
80～84	300	135	165	5.6	45.0	55.0	
85～	223	91	132	4.2	40.8	59.2	

## 2. う蝕（未処置歯）のある者の割合（永久歯）

永久歯でう蝕（未処置歯）のある者の割合は被調査者全体の44.0%で、前回調査と比べて3.0ポイント、全国調査より7.6%ポイント高かった。

年齢階級別で見ると、全ての年齢階級において20%を超えており、若年者ほどその割合が高い傾向にあり、20～24歳で最も高く59.8%であった。

男女で比較すると、男性44.1%に対して女性55.9%で女性が11.8ポイント高い。

年齢階級別で見ると、64歳までは女性の方が高いが、65歳以降は男性の方が高くなっている（表4、図4）。

前回調査と比較すると、全体としては、う蝕（未処置歯）のある者の割合は37.5%から44.0%に6.5ポイント増加している。特に、60歳未満で高くなっている傾向が認められる。全国調査と比較すると、10.7ポイント高く、同様の傾向であった（表5、図5）。

表 4 う蝕（未処置歯）を有する者、割合（永久歯）

年齢階級 (歳)	う蝕(未処置歯)を有する者(人)				う蝕のない 者(人)
	被調査者数	総数	男	女	
総数	1531	673	297	376	858
20～24	107	64	23	41	43
25～29	141	77	36	41	64
30～34	121	71	39	32	50
35～39	155	75	31	44	80
40～44	136	62	26	36	74
45～49	149	79	30	49	70
50～54	166	70	27	43	96
55～59	144	53	22	31	91
60～64	105	28	13	15	77
65～69	155	50	27	23	105
70～74	65	20	11	9	45
75～79	41	9	3	6	32
80～84	23	7	4	3	16
85～	23	8	5	3	15

年齢階級 (歳)	う蝕(未処置歯)を有する者(%)			う蝕のない 者(%)
	総数	男	女	
総数	44.0	44.1	55.9	56.0
20～24	59.8	21.5	38.3	40.2
25～29	54.6	25.5	29.1	45.4
30～34	58.7	32.2	26.4	41.3
35～39	48.4	20.0	28.4	51.6
40～44	45.6	19.1	26.5	54.4
45～49	53.0	20.1	32.9	47.0
50～54	42.2	16.3	25.9	57.8
55～59	36.8	15.3	21.5	63.2
60～64	26.7	12.4	14.3	73.3
65～69	32.3	17.4	14.8	67.7
70～74	30.8	16.9	13.8	69.2
75～79	22.0	7.3	14.6	78.0
80～84	30.4	17.4	13.0	69.6
85～	34.8	21.7	13.0	65.2

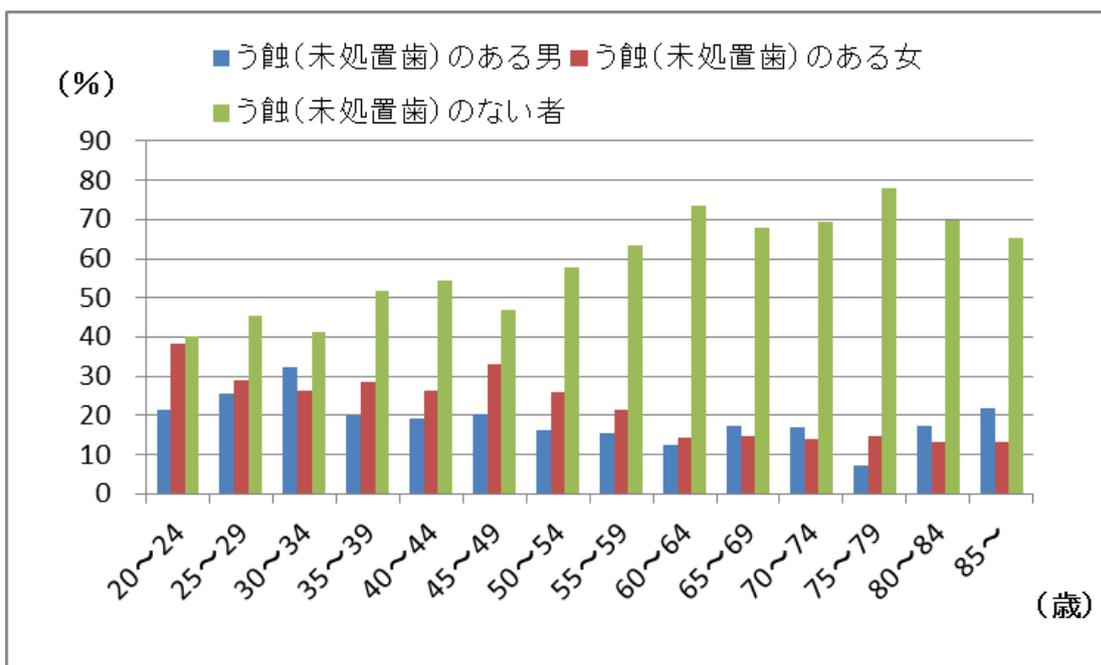


図3 う蝕(未処置歯)を有する者の割合(永久歯)

表5 う蝕(未処置歯)を有する者の割合【比較】

年齢階級(歳)	山梨		全国	
	平成24年	平成29年	平成23年	平成28年
総数	37.5	44.0	36.9	33.3
20~24	48.1	59.8	43.8	32.9
25~29	53.9	54.6	42.6	41.9
30~34	49.5	58.7	40.9	34.5
35~39	50.8	48.4	37.3	35.3
40~44	41.5	45.6	33.5	35.0
45~49	40.3	53.0	36.7	30.2
50~54	32.4	42.2	34.2	29.3
55~59	33.3	36.8	35.7	33.5
60~64	36.3	26.7	36.4	35.0
65~69	22.4	32.3	35.7	32.6
70~74	38.7	30.8	36.9	33.2
75~79	24.6	22.0	38.2	35.1
80~84	24.7	30.4	40.9	30.4
85~	37.3	34.8	27.4	30.1

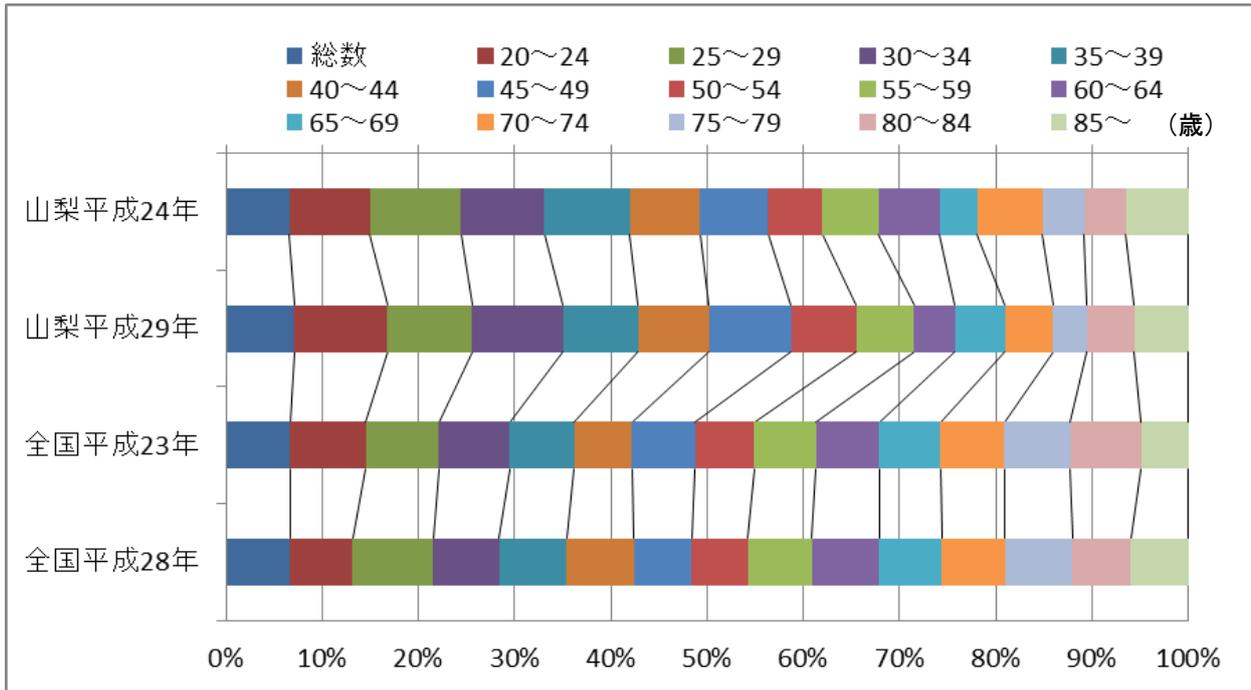


図4 う蝕（未処置歯）を有する者の割合【比較】

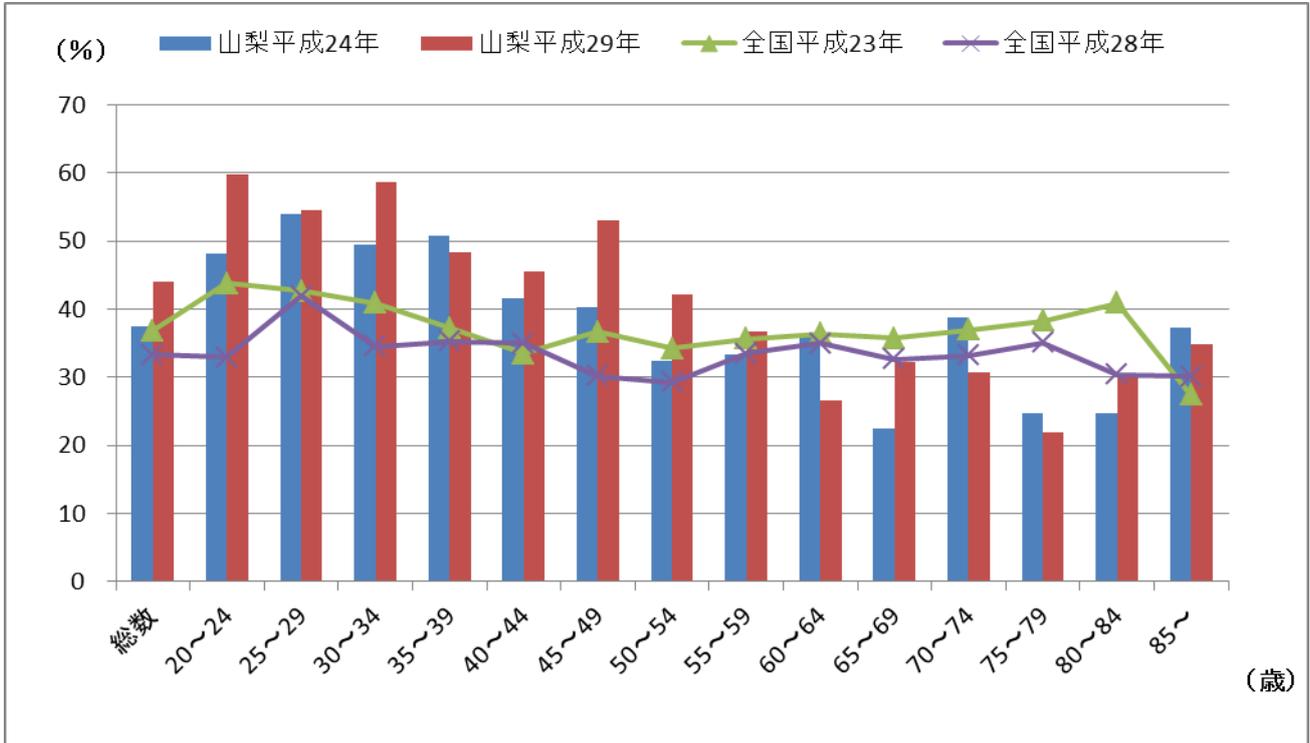


図5 う蝕（未処置歯）を有する者の割合【比較】

### 3. 1人平均現在歯数（永久歯）

1人あたりの平均現在歯数（永久歯）は被調査者全体では24.5本であった。

年齢階級別で見ると、45歳以降で年齢階級が高くなるにつれて減少している。79歳未満では、自分の歯が20本以上存在している。

また、男女で比較すると、74歳未満では差がないが、75歳以上では女性の方が高い傾向となり、その傾向は、年齢階級が高くなるに連れ、拡大している（表6、図6）。

前回調査と比べると、現在歯数は23.0本から24.5本となり、1.5本増加している。被調査者の若年者の割合が高くなっている影響も含まれるが、年齢階級別に見ても、50歳以上で今回調査の方が高くなっている。

40歳以降で全国調査と比較すると、山梨県は22.9本、全国値は21.7本で山梨県が1.2本多くなっており、60歳以上でその傾向が明らかとなっている（表6、図7）。

表6 1人平均現在歯数（永久歯）

年齢階級 (歳)	総数		男		女	
	平成24年	平成29年	平成24年	平成29年	平成24年	平成29年
総数	23.0	24.5	23.5	24.2	24.2	24.8
20～24	28.3	28.9	28.8	29.7	29.7	28.5
25～29	28.6	28.6	28.6	29.0	29.0	28.4
30～34	28.7	28.9	29.2	29.2	29.2	28.6
35～39	28.2	28.4	28.1	28.7	28.7	28.3
40～44	28.0	28.1	28.3	28.2	28.2	28.1
45～49	27.0	27.0	26.7	26.5	26.5	27.3
50～54	25.7	26.5	25.7	26.2	26.2	26.7
55～59	24.0	25.2	22.8	24.9	24.9	25.5
60～64	23.1	24.3	23.4	24.3	24.3	24.3
65～69	21.6	23.0	21.3	22.6	22.6	23.3
70～74	20.5	22.0	22.6	22.3	22.3	21.8
75～79	14.5	20.4	15.2	19.1	19.1	20.8
80～84	14.6	16.5	14.5	14.5	14.5	18.6
85～	9.8	15.5	13.3	13.8	13.8	17.1

年齢階級(歳)	総数		男		女	
	平成23年	平成28年	平成23年	平成28年	平成23年	平成28年
総数	20.2	21.7	20.5	21.5	20.1	21.7
40～44	27.8	28.0	27.6	28.0	27.9	28.0
45～49	27.1	27.6	27.1	27.6	27.1	27.6
50～54	25.9	26.4	25.8	25.8	25.9	26.8
55～59	24.4	25.3	24.3	24.5	24.4	25.9
60～64	22.5	23.9	23.0	23.7	22.2	24.0
65～69	21.2	21.6	21.0	21.5	21.4	21.7
70～74	17.3	19.7	17.7	18.6	17.0	20.7
75～79	15.6	18.0	15.3	18.5	15.9	17.6
80～84	12.2	15.3	13.6	15.1	11.0	15.5
85～	8.4	10.7	9.2	12.0	8.0	9.5

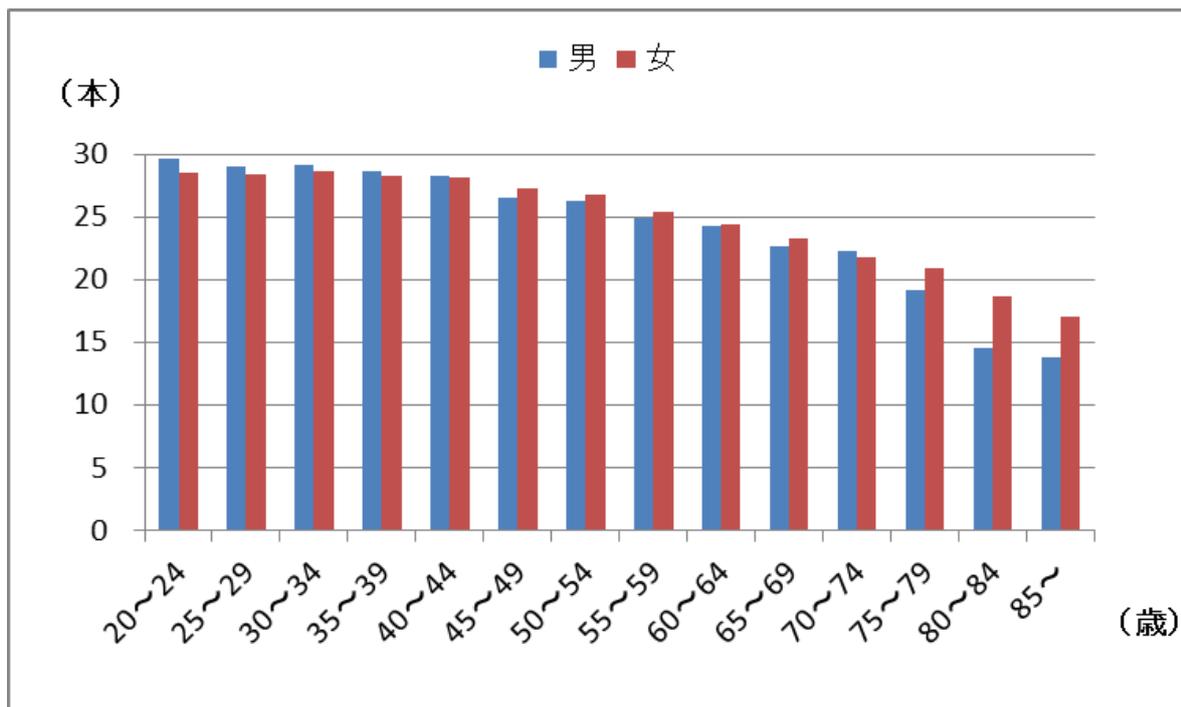


図6 平成29年1人平均現在歯数【男女比較】

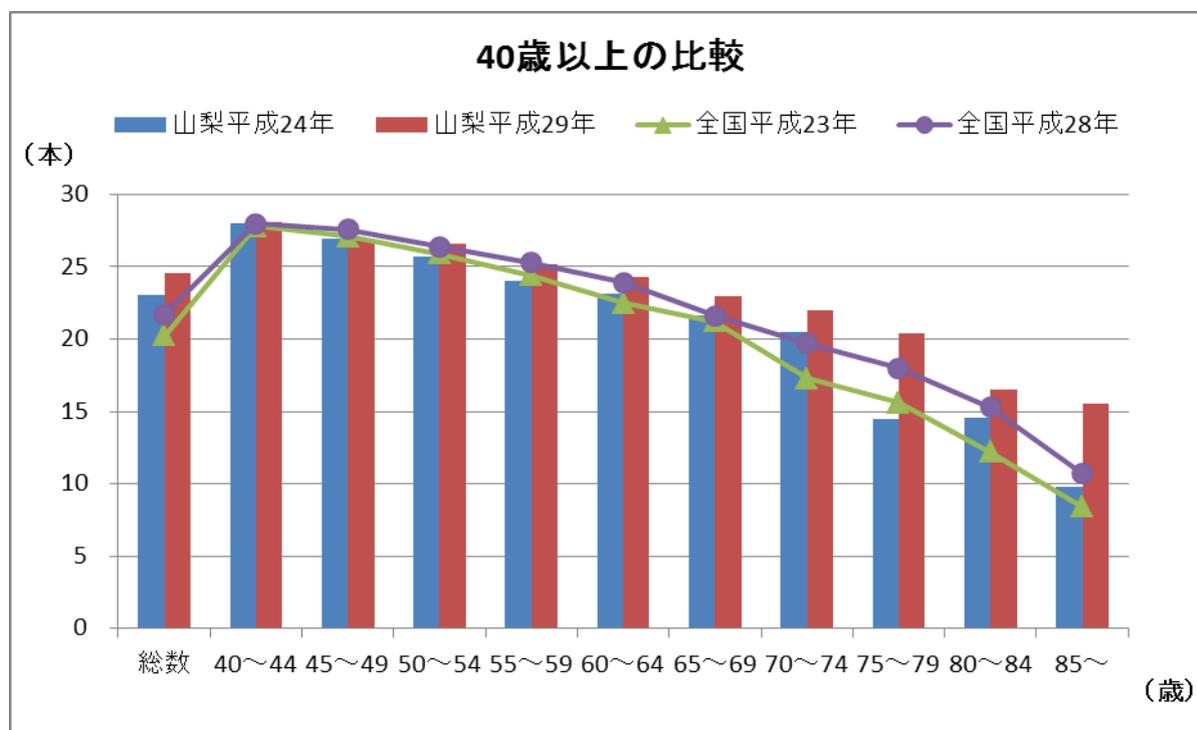


図7 1人平均現在歯数【比較】

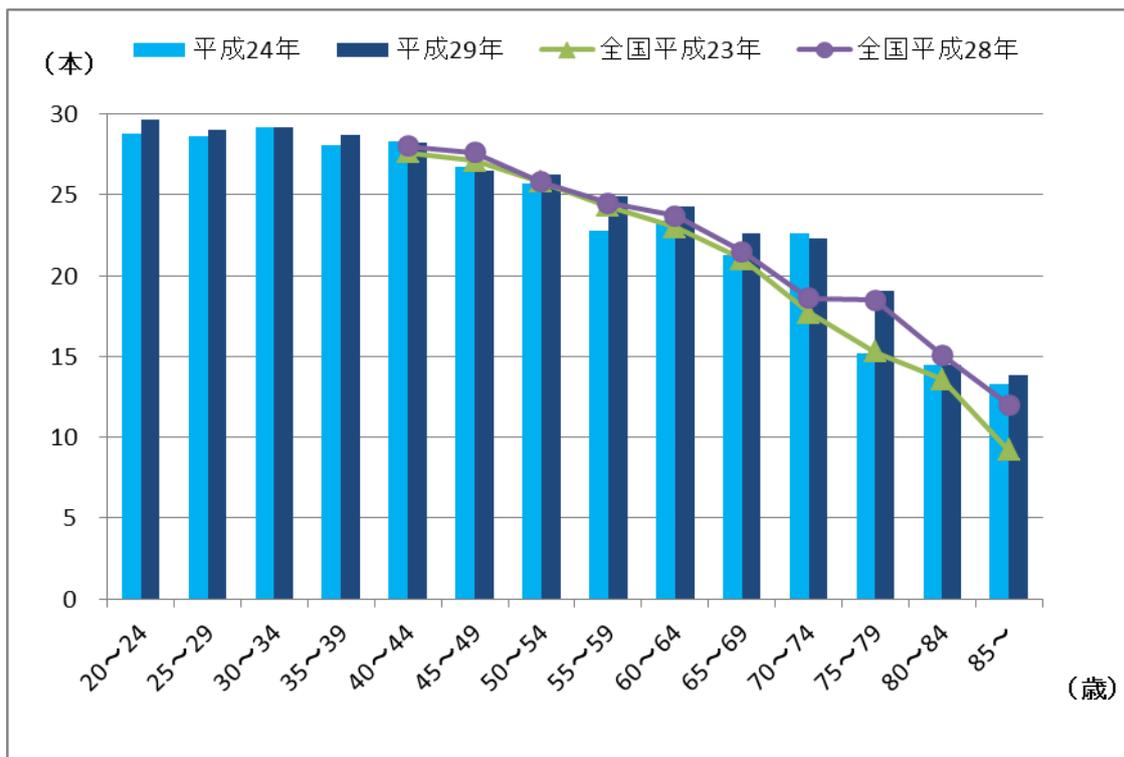


図 8 1人平均現在歯数【男性比較】

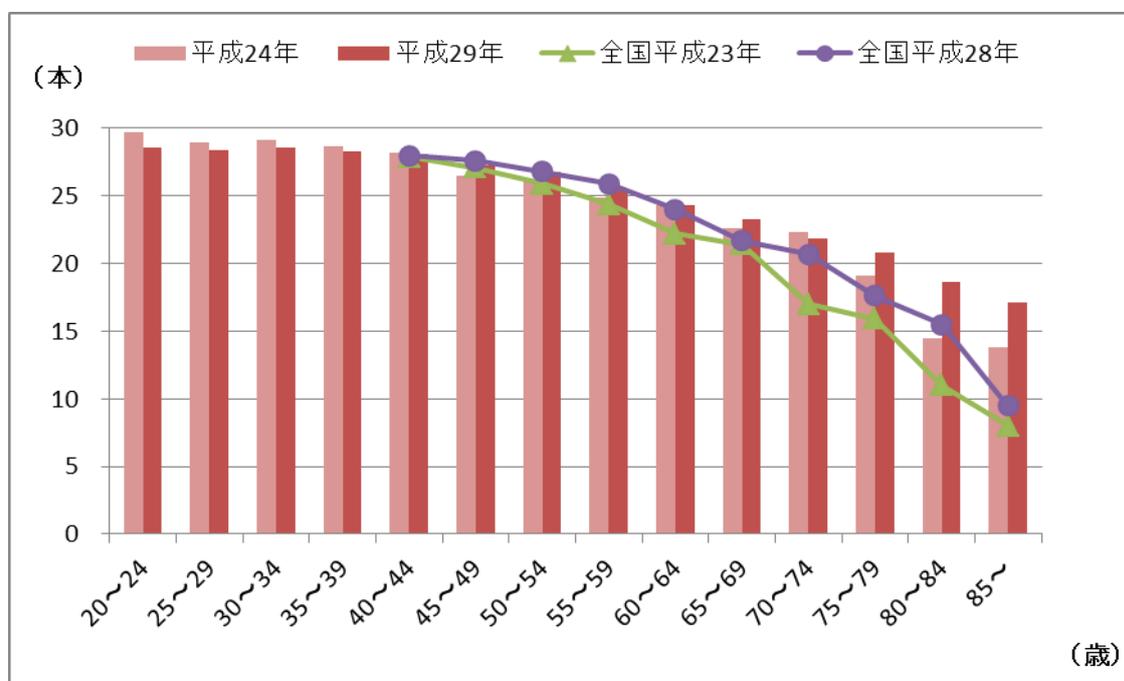


図 9 1人平均現在歯数【女性比較】

#### 4. 現在歯を 20 本以上有する者の割合（永久歯）

現在歯を 20 本以上有する者の割合（永久歯）は被調査者全体の 91.4%で認めた。

年齢階級別で見ると、20～39 歳までは 100%であるが、40 歳以降、年齢階級が上がるにつれ徐々に割合が減少している。

男女で比較すると、概ね女性の方が高く、年齢階級が上がるほどその差が拡大している（表 7、図 10）。

40 歳以上で前回調査と比較すると、現在歯を 20 本以上有する者は 69.2%から 77.6%に 8.4 ポイント増加し、69 歳までは 80%以上の方が 20 本以上を有していた。

全国調査と比較すると、60 歳以降では全国値よりも高くなっている（表 8、図 11）。

表 7 現在歯を 20 本以上有する者の数および割合

年齢階級 (歳)	被験者数	現在歯を20歯以上の歯を有する者(人)			現在歯を20歯以上の歯を有する者(%)		
		総数	男	女	総数	男	女
総数	1531	1399	554	845	91.4	36.2	55.2
20～24	107	107	36	71	100.0	100.0	100.0
25～29	141	141	61	80	100.0	100.0	100.0
30～34	121	121	54	67	100.0	100.0	100.0
35～39	155	155	63	92	100.0	100.0	100.0
40～44	136	135	52	83	99.3	100.0	98.8
45～49	149	143	51	92	96.0	92.7	97.9
50～54	166	159	58	101	95.8	92.1	98.1
55～59	144	126	56	70	87.5	87.5	87.5
60～64	105	91	31	60	86.7	86.1	87.0
65～69	155	125	60	65	80.6	78.9	82.3
70～74	65	49	18	31	75.4	75.0	75.6
75～79	41	26	6	20	63.4	54.5	66.7
80～84	23	11	4	7	47.8	33.3	63.6
85～	23	10	4	6	43.5	36.4	50.0

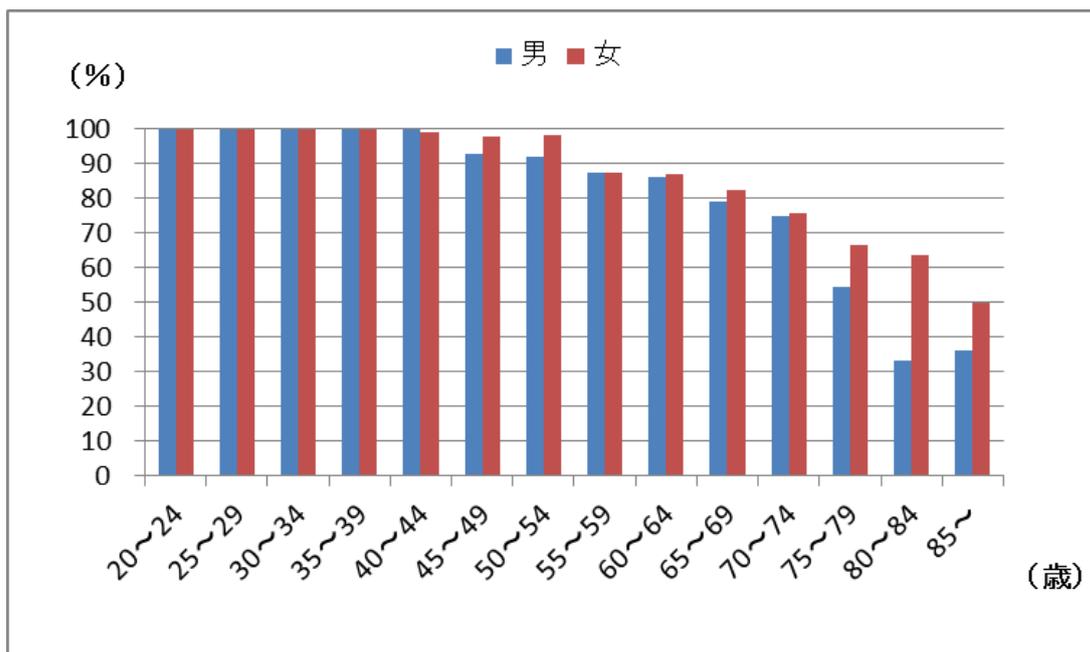


図 10 現在歯を 20 本以上有する者の割合

表 8 現在歯を 20 本以上有する者の割合【比較】

20本以上の歯を有する者の割合【40歳以上】 (％)

年齢階級(歳)	山梨平成24年	山梨平成29年	全国平成23年	全国平成28年
40～44	99.2	99.3	98.7	98.8
45～49	97.2	96.0	97.1	99.0
50～54	93.7	95.8	93.0	95.9
55～59	83.7	87.5	85.7	91.3
60～64	77.4	86.7	78.4	85.2
65～69	73.1	80.6	69.6	73.0
70～74	65.3	75.4	52.3	63.4
75～79	41.0	63.4	47.6	56.1
80～84	42.0	47.8	28.9	44.2
85～	19.6	43.5	17.0	25.7

\* 全国は40歳から\*

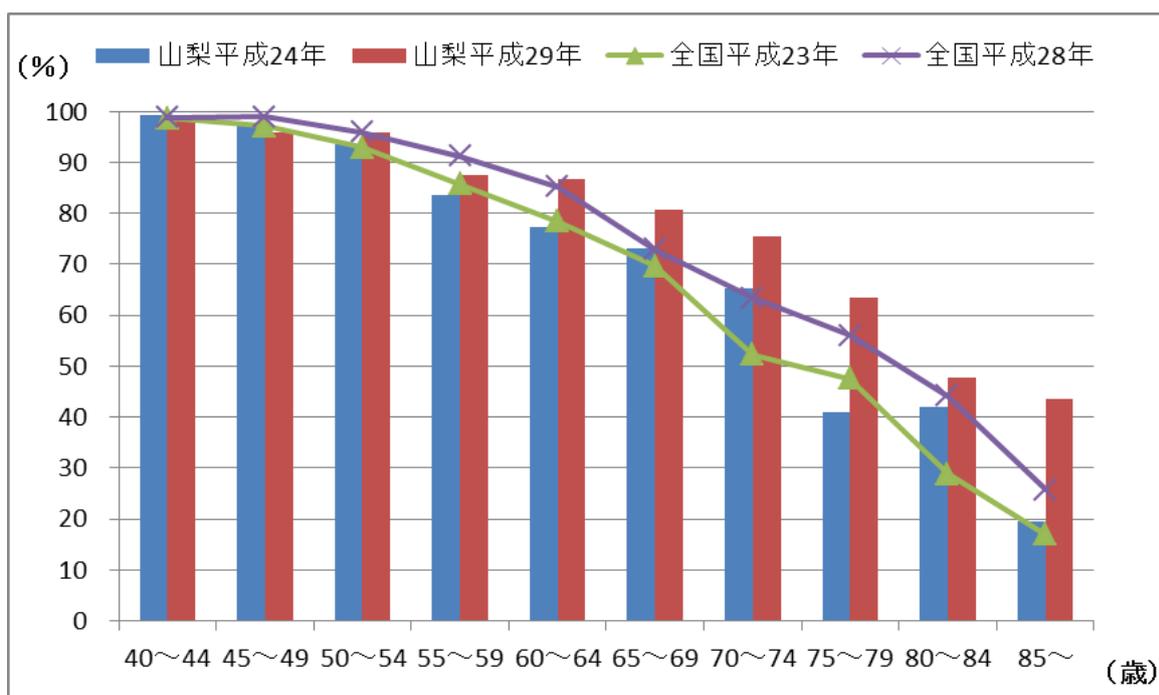


図 11 現在歯を 20 本以上有する者の割合【比較】

## 5. 1人平均喪失歯数（永久歯）

1人あたりの平均喪失歯数（永久歯）は被調査者全体では1.8本だった。

年齢階級別で見ると、44歳までは1本未満で、45歳以降、年齢階級が上がるにつれ喪失歯数は増加している。

男女で比較すると、男性2.1本、女性1.5本で、男性の方が0.6本多く、80歳以上では男性の方が2本以上多くなっている（表9、図12）。

前回調査と比較すると、5.0本から1.8本と3.2本少なくなっており、全ての年齢階級でも1人平均喪失歯数は大幅に減少している。

全国調査と比較すると、全国値は5.0本で、山梨県は3.2本少なく、全ての年齢階級で全国値よりも少なくなっている。（表9、図13）。

表9 1人平均喪失歯数（永久歯）

（本）

年齢階級 （歳）	山 梨						全 国	
	平成24年			平成29年			平成23年	平成28年
	総数	男	女	総数	男	女	総数	総数
総 数	5.5	5.2	5.6	3.1	3.5	2.8	5.9	4.9
20～24	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
25～29	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.2
30～34	0.3	0.3	0.3	0.1	0.2	0.1	0.4	0.2
35～39	0.6	0.8	0.5	0.2	0.2	0.1	0.5	0.3
40～44	0.9	0.9	0.9	0.3	0.4	0.2	0.9	0.8
45～49	1.5	1.7	1.4	1.2	1.8	0.8	1.5	0.9
50～54	2.8	3.0	2.7	1.3	1.7	1.1	2.6	2.0
55～59	4.5	5.9	3.4	2.2	2.7	1.8	4.1	3.1
60～64	5.6	5.4	5.8	2.7	2.8	2.7	5.9	4.6
65～69	6.8	7.2	6.6	3.8	4.1	3.6	7.2	6.7
70～74	7.8	5.9	8.8	4.7	5.6	4.2	11.0	8.6
75～79	13.8	13.2	14.5	5.9	5.9	5.9	12.7	10.3
80～84	13.6	13.8	13.5	10.4	11.7	9.1	16.1	12.9
85～	18.4	15.1	19.9	10.2	11.3	9.3	19.7	17.5

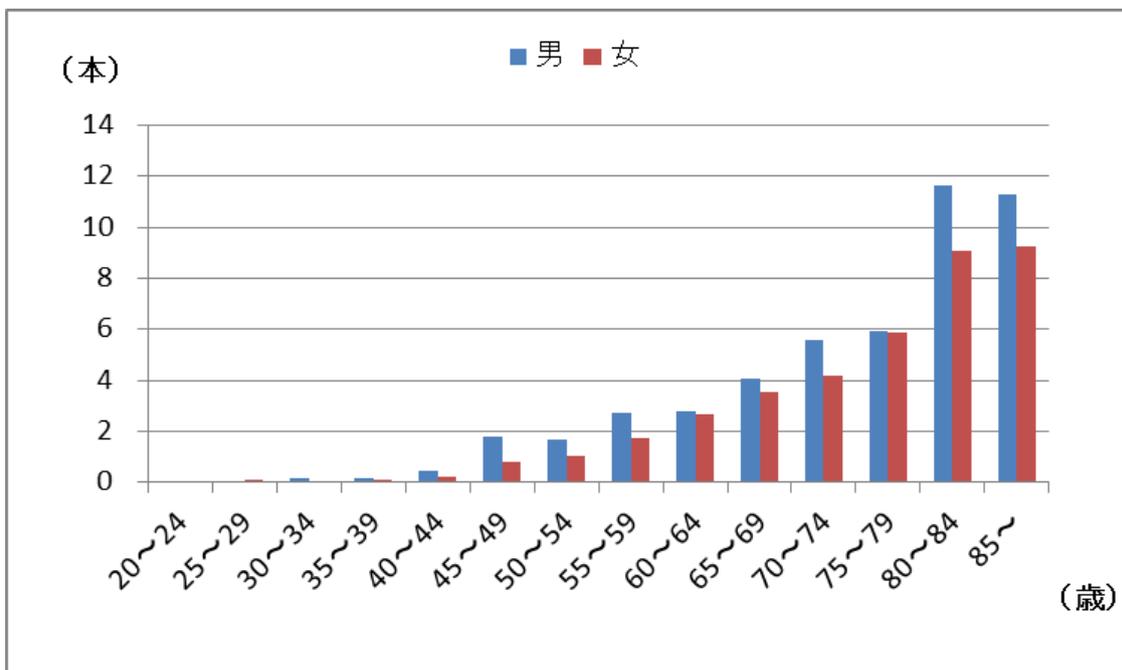


图 12 1人平均喪失歯数（永久歯）

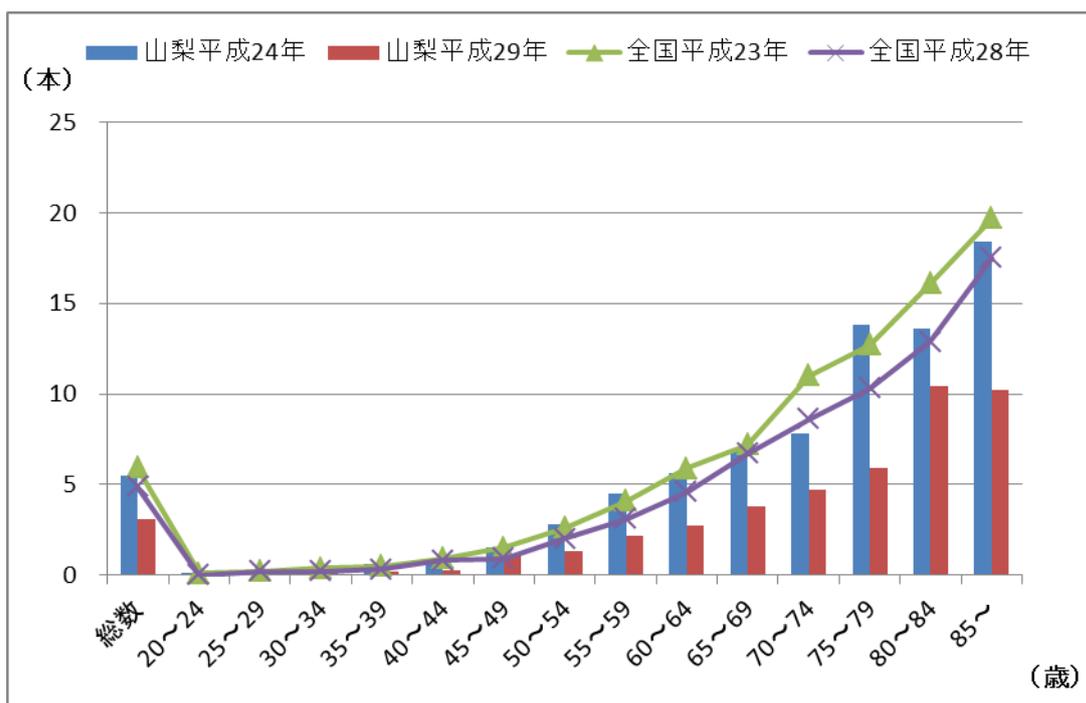


图 13 1人平均喪失歯数（永久歯）【比較】

## 6. 喪失歯を有する者の割合（永久歯）

喪失歯を有する者の割合（永久歯）は被調査者全体の34.9%で認めた。

年齢階級別で見ると、64歳までは年齢階級が上がるにつれ、その割合が増加している。

男女で比較すると、男性が36.6%に対して、女性が33.8%と男性が2.8ポイント高い。30～59歳では男性の方が高く、60歳以降は男女差が縮まっている（表10、図14）。

前回調査と比較すると、61.2%から43.4%と17.8ポイント減少し、全年齢階級で減少した。

全国調査と比較しても、全国値56.1%よりも12.7%低く、全年齢階級で低かった。（表11、図15）。

表 10 喪失歯を有する者の割合（永久歯）

年齢階級 (歳)	喪失歯を有する者(人)			喪失歯を有する者(%)		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	535	226	309	34.9	36.6	33.8
20～24	2	0	2	1.9	0.0	2.8
25～29	7	1	6	5.0	1.6	7.5
30～34	7	4	3	5.8	7.4	4.5
35～39	17	8	9	11.0	12.7	9.8
40～44	23	10	13	16.9	19.2	15.5
45～49	49	19	30	32.9	34.5	31.9
50～54	74	32	42	44.6	50.8	40.8
55～59	74	39	35	51.4	60.9	43.8
60～64	71	22	49	67.6	61.1	71.0
65～69	102	50	52	65.8	65.8	65.8
70～74	41	14	27	63.1	58.3	65.9
75～79	28	7	21	68.3	63.6	70.0
80～84	21	11	10	91.3	91.7	90.9
85～	19	9	10	82.6	81.8	83.3

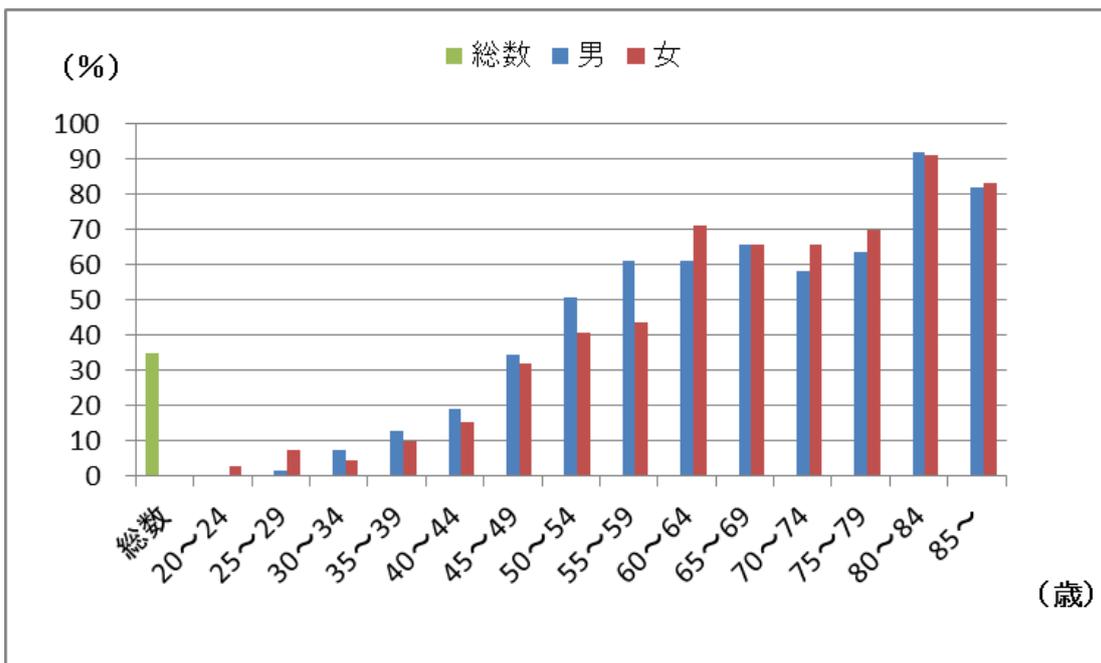


図 14 喪失歯を有する者の割合（永久歯）

表 11 喪失歯を有する者の割合【比較】

(%)

年齢階級 (歳)	山 梨		全 国	
	平成24年度	平成29年度	平成23年	平成28年
総数	61.2	43.4	59.7	56.1
20～24	9.9	1.9	9.0	2.9
25～29	7.9	5.0	10.7	8.1
30～34	16.2	5.8	24.9	11.5
35～39	33.6	11.0	22.5	20.5
40～44	40.8	16.9	34.4	31.1
45～49	50.7	32.9	44.3	41.1
50～54	63.4	44.6	58.8	61.5
55～59	76.7	51.4	76.2	72.8
60～64	87.9	67.6	83.0	79.2
65～69	89.6	65.8	87.3	87.9
70～74	85.5	63.1	91.4	87.4
75～79	98.5	68.3	96.2	90.9
80～84	96.3	91.3	97.3	93.8
85～	100.0	82.6	100.0	97.1

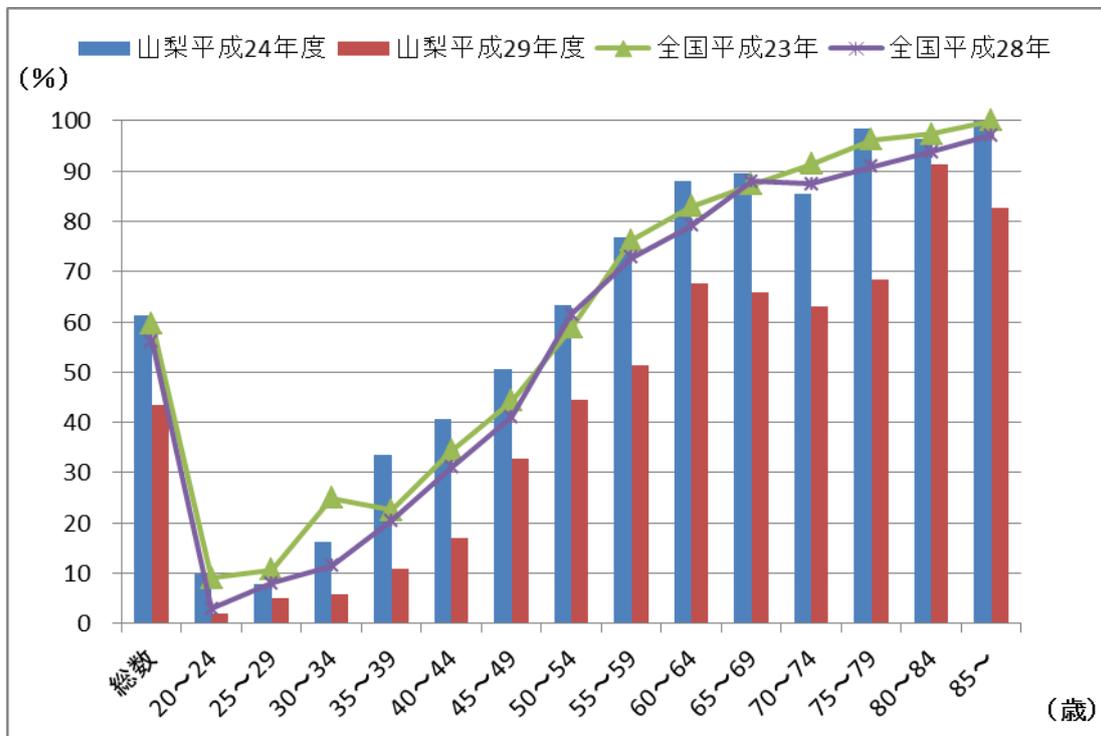


図 15 喪失歯を有する者の割合【比較】

## 7. 歯周ポケットの状況

歯周ポケットのある者（永久歯）は被調査者全体の70.3%で認めた。

年齢階級別で見ると、「所見のない者」の割合は年齢とともに減少する一方で、「歯周ポケット6mm以上」の割合が増加している。「4mm以上の歯周ポケットのある者」は、20代前半では約4割だが、25～44歳では約6割、45～49歳で約7割、それ以降はおよそ8割と全体的に高くなっている（表12、図17）。

男女で比較すると、「4mm以上の歯周ポケットのある者」は男性が73.0%に対し、女性が68.6%と男性が4.4ポイント高い。また、「6mm以上の歯周ポケットのある者」は男性が26.9%に対し、女性が20.6%と男性が6.3ポイント高くなっている。

前回調査と正確には調査方法が異なるが、参考までに比較すると、「4mm以上の歯周ポケットのある者」は調査全体で46.7%から70.3%に23.6ポイント増加している。また、年齢階級別で見ると、全ての年齢階級で大幅に増加している。特に、20代前半での増加は著しい（表13、図20）。また、「6mm以上の歯周ポケットのある者」は調査全体で15.6%から23.1%と7.5ポイント増加し、年齢階級別でも、ほぼ全年齢階級で大幅に増加している（表16、図23）。

全国調査と比較しても、「4mm以上の歯周ポケットのある者」、「6mm以上の歯周ポケットのある者」についても全国値を大きく上回っており、今回の調査結果について経年変化だけでは説明できない差ではないかと考えられる。

表 12 歯周ポケットの状況

	年齢階級 (歳)	人数(人)					
		総数	所見の ない者	歯周ポケット(4mm以上)のある者			対象歯の ない者
				総数	4mm以上 6mm未満	6mm以上	
総数	20~24	107	65	42	37	5	0
	25~29	141	51	90	77	13	0
	30~34	121	49	72	57	15	0
	35~39	155	53	102	84	18	0
	40~44	136	53	83	60	23	0
	45~49	149	41	107	77	30	1
	50~54	166	35	131	79	52	0
	55~59	144	31	113	73	40	0
	60~64	105	13	92	54	38	0
	65~69	155	28	123	62	61	4
	70~74	65	11	52	29	23	2
	75~79	41	7	32	17	15	2
	80~84	23	1	20	10	10	2
	85~	23	3	18	7	11	2
総数	1531	441	1077	723	354	13	
男	20~24	36	17	19	18	1	0
	25~29	61	21	40	35	5	0
	30~34	54	19	35	27	8	0
	35~39	63	22	41	31	10	0
	40~44	52	17	35	22	13	0
	45~49	55	14	40	26	14	1
	50~54	63	11	52	25	27	0
	55~59	64	11	53	32	21	0
	60~64	36	5	31	18	13	0
	65~69	76	16	57	27	30	3
	70~74	24	2	21	13	8	1
	75~79	11	1	10	5	5	0
	80~84	12	1	10	3	7	1
	85~	11	2	7	3	4	2
総数	618	159	451	285	166	8	
女	20~24	71	48	23	19	4	0
	25~29	80	30	50	42	8	0
	30~34	67	30	37	30	7	0
	35~39	92	31	61	53	8	0
	40~44	84	36	48	38	10	0
	45~49	94	27	67	51	16	0
	50~54	103	24	79	54	25	0
	55~59	80	20	60	41	19	0
	60~64	69	8	61	36	25	0
	65~69	79	12	66	35	31	1
	70~74	41	9	31	16	15	1
	75~79	30	6	22	12	10	2
	80~84	11	0	10	7	3	1
	85~	12	1	11	4	7	0
総数	913	282	626	438	188	5	

	年齢階級 (歳)	割合(%)				
		所見の ない者	歯周ポケット(4mm以上)のある者			対象歯の ない者
			総数	4mm以上 6mm未満	6mm以上	
総数	20～24	60.7	39.3	34.6	4.7	0.0
	25～29	36.2	63.8	54.6	9.2	0.0
	30～34	40.5	59.5	47.1	12.4	0.0
	35～39	34.2	65.8	54.2	11.6	0.0
	40～44	39.0	61.0	44.1	16.9	0.0
	45～49	27.5	71.8	51.7	20.1	0.7
	50～54	21.1	78.9	47.6	31.3	0.0
	55～59	21.5	78.5	50.7	27.8	0.0
	60～64	12.4	87.6	51.4	36.2	0.0
	65～69	18.1	79.4	40.0	39.4	2.6
	70～74	16.9	80.0	44.6	35.4	3.1
	75～79	17.1	78.0	41.5	36.6	4.9
	80～84	4.3	87.0	43.5	43.5	8.7
	85～	13.0	78.3	30.4	47.8	8.7
総数	28.8	70.3	47.2	23.1	0.8	
男	20～24	47.2	52.8	50.0	2.8	0.0
	25～29	34.4	65.6	57.4	8.2	0.0
	30～34	35.2	64.8	50.0	14.8	0.0
	35～39	34.9	65.1	49.2	15.9	0.0
	40～44	32.7	67.3	42.3	25.0	0.0
	45～49	25.5	72.7	47.3	25.5	1.8
	50～54	17.5	82.5	39.7	42.9	0.0
	55～59	17.2	82.8	50.0	32.8	0.0
	60～64	13.9	86.1	50.0	36.1	0.0
	65～69	21.1	75.0	35.5	39.5	3.9
	70～74	8.3	87.5	54.2	33.3	4.2
	75～79	9.1	90.9	45.5	45.5	0.0
	80～84	8.3	83.3	25.0	58.3	8.3
	85～	18.2	63.6	27.3	36.4	18.2
総数	25.7	73.0	46.1	26.9	1.3	
女	20～24	67.6	32.4	26.8	5.6	0.0
	25～29	37.5	62.5	52.5	10.0	0.0
	30～34	44.8	55.2	44.8	10.4	0.0
	35～39	33.7	66.3	57.6	8.7	0.0
	40～44	42.9	57.1	45.2	11.9	0.0
	45～49	28.7	71.3	54.3	17.0	0.0
	50～54	23.3	76.7	52.4	24.3	0.0
	55～59	25.0	75.0	51.3	23.8	0.0
	60～64	11.6	88.4	52.2	36.2	0.0
	65～69	15.2	83.5	44.3	39.2	1.3
	70～74	22.0	75.6	39.0	36.6	2.4
	75～79	20.0	73.3	40.0	33.3	6.7
	80～84	0.0	90.9	63.6	27.3	9.1
	85～	8.3	91.7	33.3	58.3	0.0
総数	30.9	68.6	48.0	20.6	0.5	

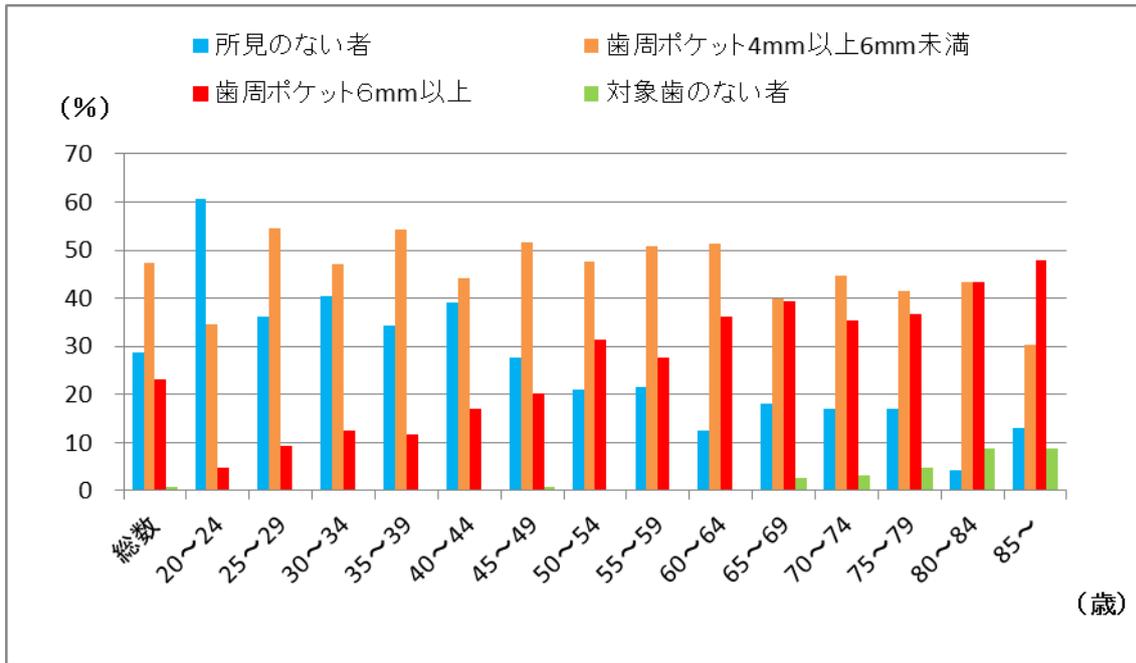


図 16 歯周ポケットの状況

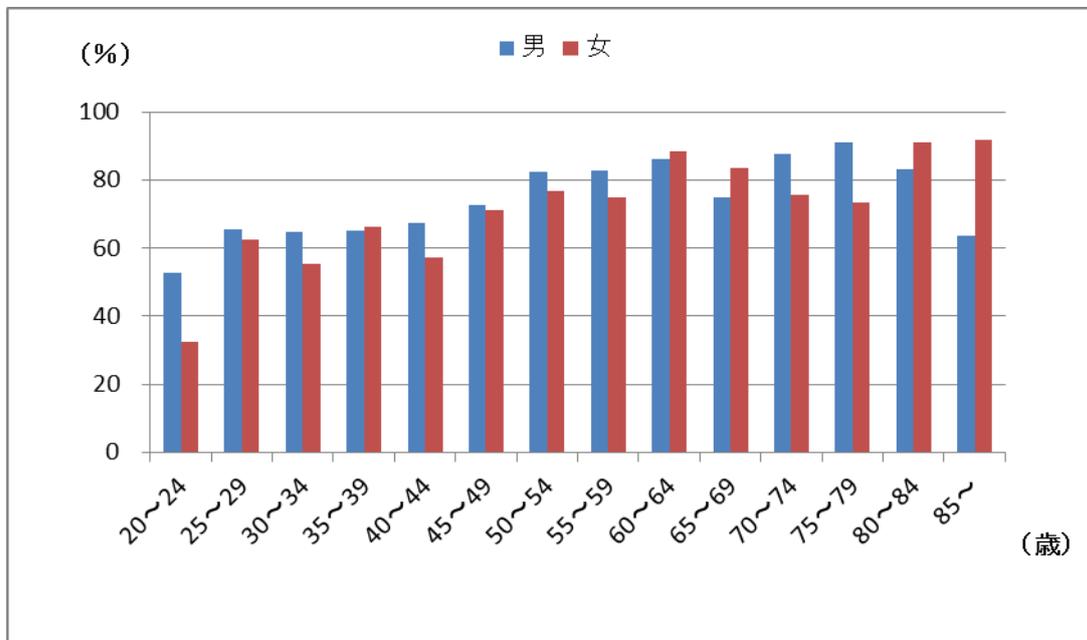


図 17 4mm以上の歯周ポケットのある者

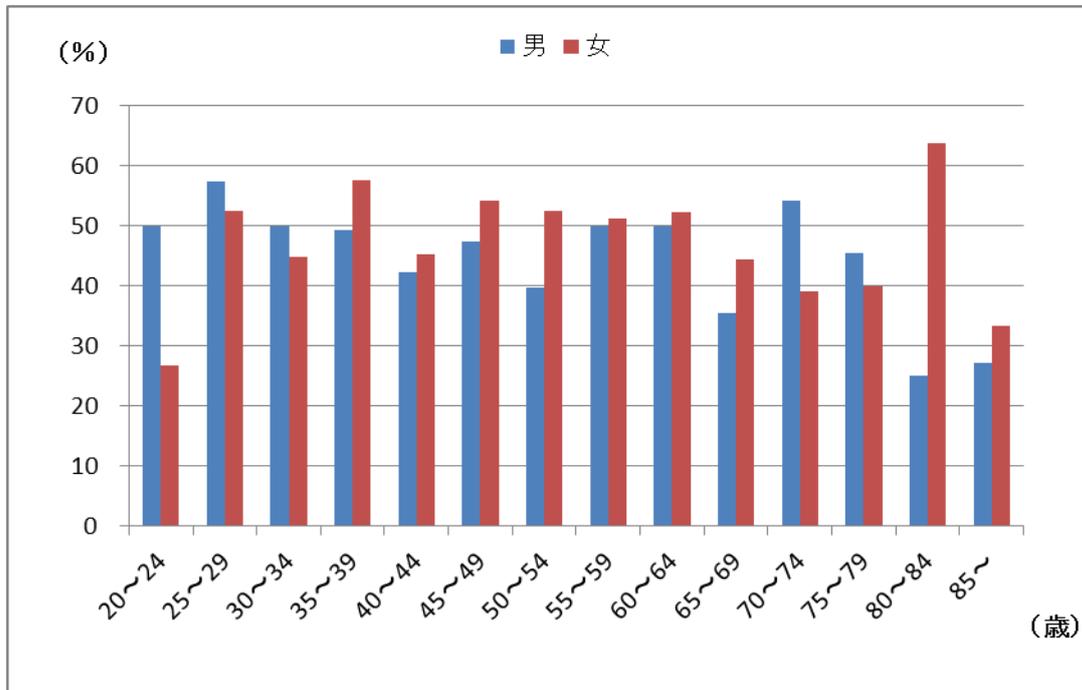


図 18 4mm 以上 6mm 未満の歯周ポケットのある者

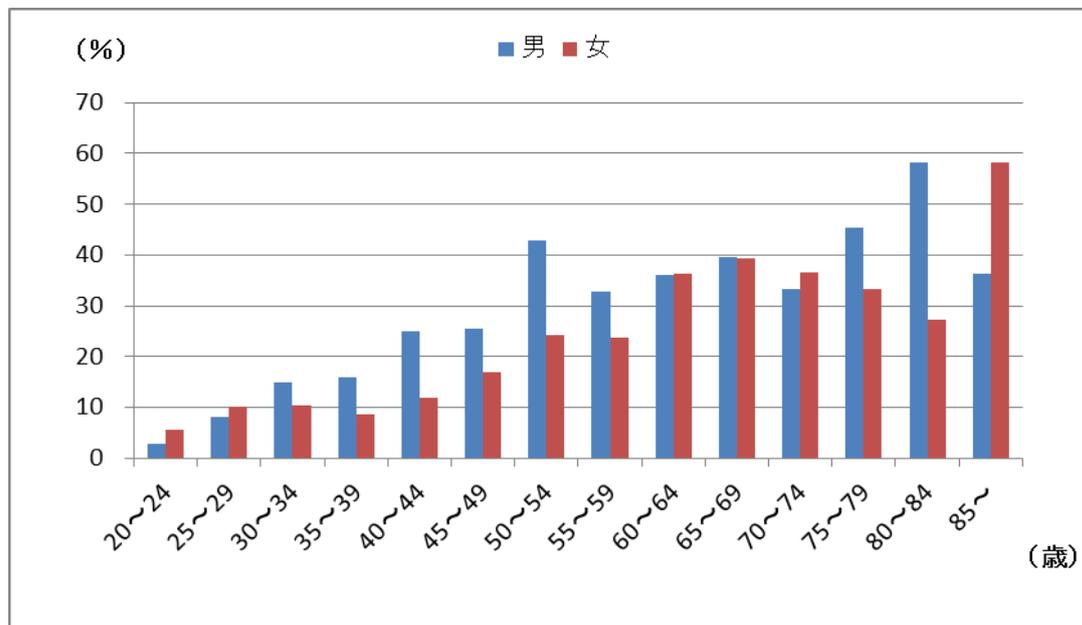


図 19 6mm 以上の歯周ポケットのある者

表 13 4mm以上の歯周ポケットのある者【比較】

年齢階級(歳)	(%)			
	山梨平成24年	山梨平成29年	全国平成23年	全国平成28年
総数	46.7	70.3		
20～24	7.6	39.3	13.5	25.7
25～29	28.6	63.8	13.9	31.4
30～34	29.6	59.5	20.3	33.1
35～39	38.8	65.8	23.3	39.5
40～44	36.2	61.0	25.6	44.9
45～49	48.3	71.8	30.5	44.6
50～54	51.4	78.9	35.4	54.1
55～59	57.5	78.5	46.2	47.8
60～64	63.8	87.6	47.5	57.9
65～69	58.6	79.4	50.8	60.5
70～74	65.0	80.0	42.8	53.6
75～79	39.4	78.0	49.0	55.3
80～84	51.9	87.0	42.6	47.7
85～	47.1	78.3	36.8	44.1

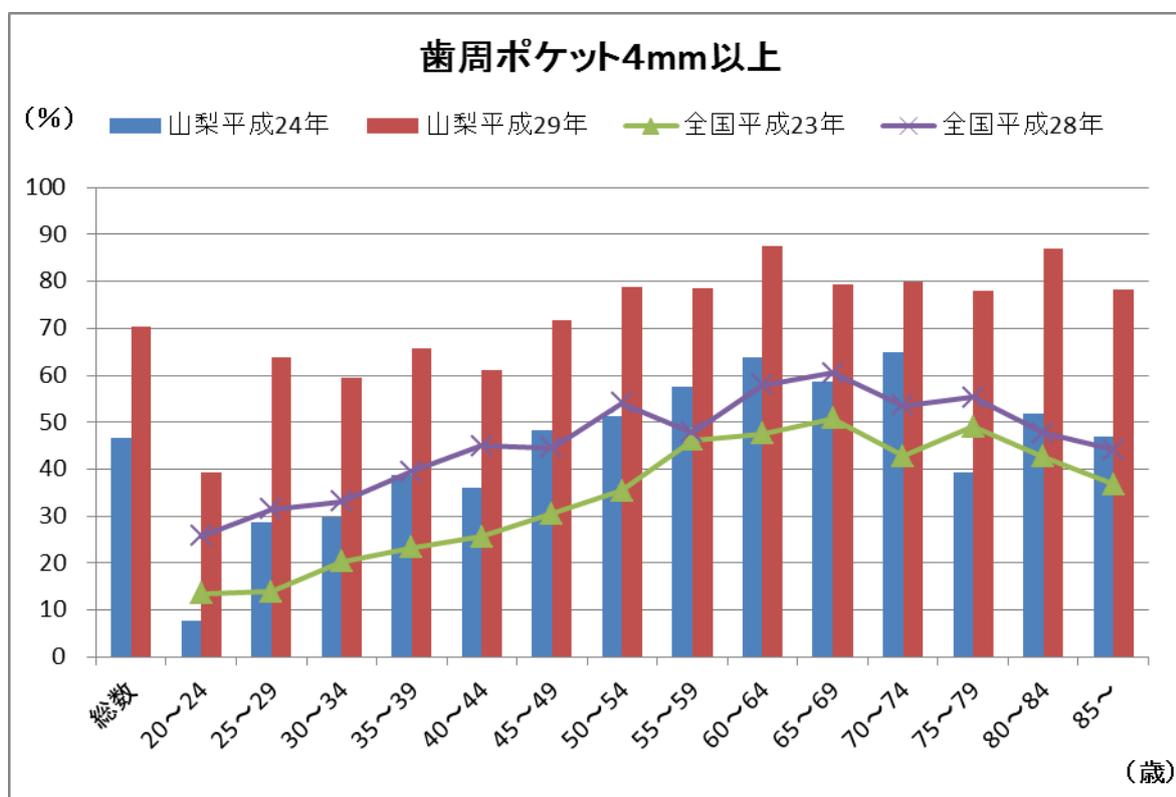


図 20 4mm以上の歯周ポケットのある者【比較】

表 14 4mm以上の歯周ポケットのある者（年代別）【比較】

(%)

年齢階級 (歳)	山梨 平成29年	全国 平成28年
25～34	61.8	32.4
35～44	63.6	42.6
45～54	75.6	49.5
55～64	82.3	53.7
65～74	79.5	57.5
75～	80.5	50.6

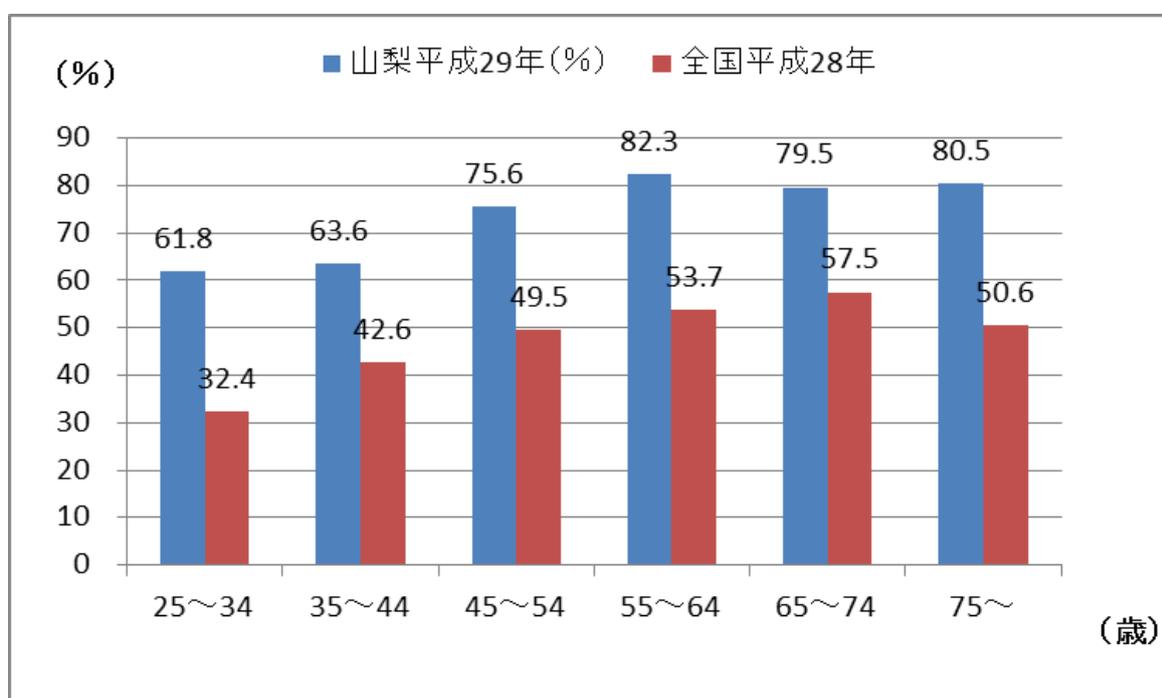


図 21 4mm以上の歯周ポケットのある者（年代別）【比較】

表 15 4 mm 以上 6 mm 未満の歯周ポケットのある者【比較】

年齢階級(歳)	(%)			
	山梨平成24年	山梨平成29年	全国平成23年	全国平成28年
総数	31.1	47.2		
20～24	7.6	34.6	12.4	25.7
25～29	26.2	54.6	11.5	31.4
30～34	21.3	47.1	18.2	30.2
35～39	29.8	54.2	21.1	33.7
40～44	26.2	44.1	22.0	39.4
45～49	32.9	51.7	24.8	40.6
50～54	33.8	47.6	28.0	44.5
55～59	26.0	50.7	36.4	37.5
60～64	41.5	51.4	33.6	43.6
65～69	34.6	40.0	35.5	42.3
70～74	44.7	44.6	29.0	40.4
75～79	26.5	41.5	32.4	40.3
80～84	38.3	43.5	26.0	35.6
85～	33.3	30.4	25.5	31.6

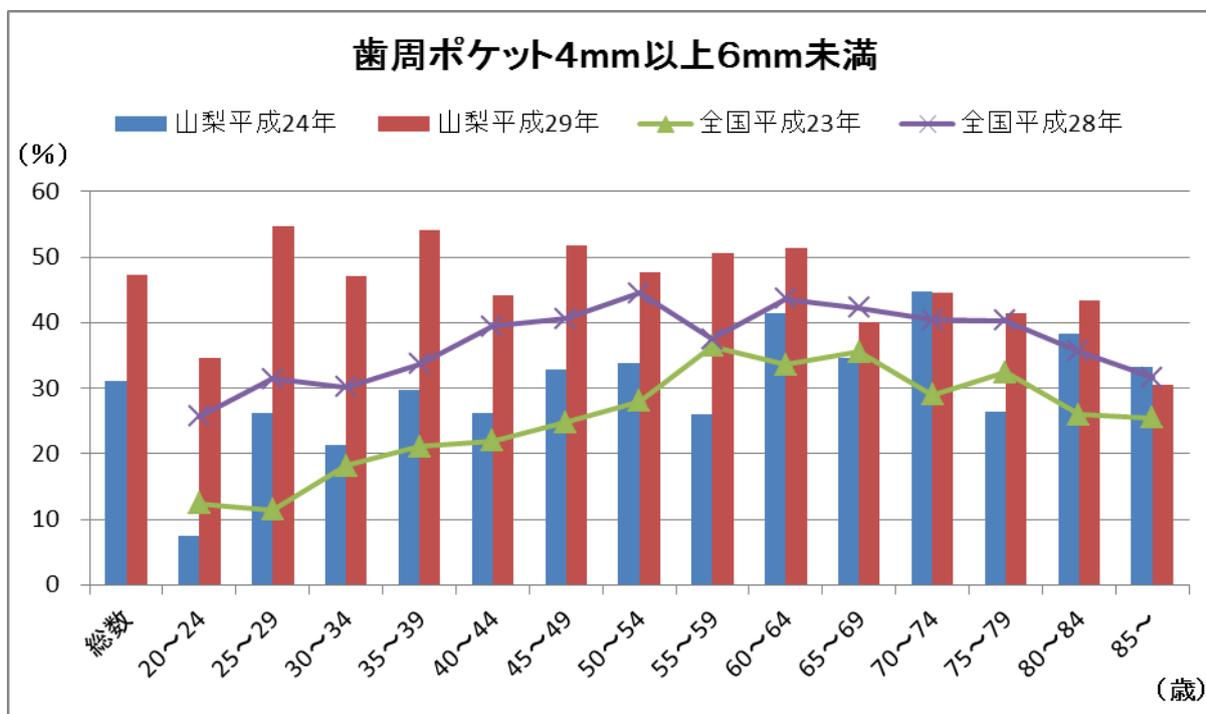


図 22 4 mm 以上 6 mm 未満の歯周ポケットのある者【比較】

表 16 6mm以上の歯周ポケットのある者【比較】

年齢階級(歳)	(%)			
	山梨平成24年	山梨平成29年	全国平成23年	全国平成28年
総数	15.6	23.1		
20～24		4.7	1.1	
25～29	2.4	9.2	2.5	
30～34	8.3	12.4	2.1	2.9
35～39	9.1	11.6	2.2	5.8
40～44	10.0	16.9	3.5	5.5
45～49	15.4	20.1	5.7	4.0
50～54	17.6	31.3	7.5	9.5
55～59	31.5	27.8	9.8	10.3
60～64	22.3	36.2	13.9	14.3
65～69	24.1	39.4	15.2	18.2
70～74	20.3	35.4	13.8	13.2
75～79	12.9	36.6	16.5	15.1
80～84	13.6	43.5	16.6	12.2
85～	13.7	47.8	11.3	12.5

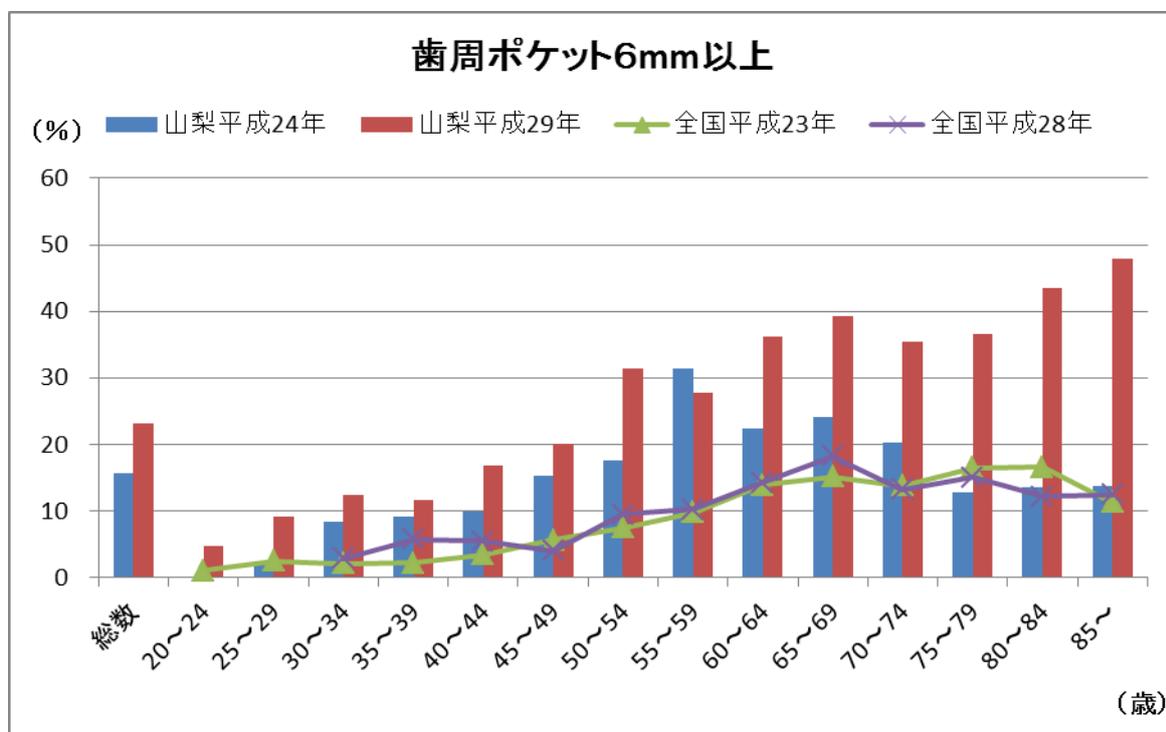


図 23 6mm以上の歯周ポケットのある者【比較】

## 8. 歯肉出血

プロービング後に出血が認められる者は被調査者全体の 71.5%に認めた。

年齢階級別で見ると、年齢階級が上がるにつれ増加する傾向があり、20～24 歳では 55.1%だが、75～79 歳では最も高く 82.9%であった。65 歳以上になると「対象歯のない者」の割合が増加している（表 17、図 24）。

男女で比較すると、「歯肉出血を有する者」は男性が 73.5%に対し、女性が 70.1%と男性が 3.4 ポイント高かった。

前回調査とは判定基準の変更により比較できなかった。

全国調査と比較すると、山梨県は全国値より多く、大差を認め、全ての年齢階級でこの傾向が認められた（表 18、図 25）。

表 17 歯肉出血を有する者の割合

	年齢階級 (歳)	人数(人)				割合(%)		
		総数	所見の ない者	プロ-ピン グ後の 出血	対象歯の ない者	所見の ない者	プロ-ピン グ後の 出血	対象歯の ない者
総数	20～24	107	48	59	0	44.9	55.1	0.0
	25～29	141	48	93	0	34.0	66.0	0.0
	30～34	121	41	80	0	33.9	66.1	0.0
	35～39	155	49	106	0	31.6	68.4	0.0
	40～44	136	40	96	0	29.4	70.6	0.0
	45～49	149	34	114	1	22.8	76.5	0.7
	50～54	166	41	125	0	24.7	75.3	0.0
	55～59	144	33	111	0	22.9	77.1	0.0
	60～64	105	31	74	0	29.5	70.5	0.0
	65～69	155	34	117	4	21.9	75.5	2.6
	70～74	65	12	51	2	18.5	78.5	3.1
	75～79	41	5	34	2	12.2	82.9	4.9
	80～84	23	2	18	3	8.7	78.3	13.0
	85～	23	5	16	2	21.7	69.6	8.7
総数		1531	423	1094	14	27.6	71.5	0.9
男	20～24	36	13	23	0	36.1	63.9	0.0
	25～29	61	20	41	0	32.8	67.2	0.0
	30～34	54	16	38	0	29.6	70.4	0.0
	35～39	63	19	44	0	30.2	69.8	0.0
	40～44	52	9	43	0	17.3	82.7	0.0
	45～49	55	15	39	1	27.3	70.9	1.8
	50～54	63	17	46	0	27.0	73.0	0.0
	55～59	64	9	55	0	14.1	85.9	0.0
	60～64	36	11	25	0	30.6	69.4	0.0
	65～69	76	20	53	3	26.3	69.7	3.9
	70～74	24	4	19	1	16.7	79.2	4.2
	75～79	11	0	11	0	0.0	100.0	0.0
	80～84	12	0	11	1	0.0	91.7	8.3
	85～	11	3	6	2	27.3	54.5	18.2
総数		618	156	454	8	25.2	73.5	1.3
女	20～24	71	35	36	0	49.3	50.7	0.0
	25～29	80	28	52	0	35.0	65.0	0.0
	30～34	67	25	42	0	37.3	62.7	0.0
	35～39	92	30	62	0	32.6	67.4	0.0
	40～44	84	31	53	0	36.9	63.1	0.0
	45～49	94	19	75	0	20.2	79.8	0.0
	50～54	103	24	79	0	23.3	76.7	0.0
	55～59	80	24	56	0	30.0	70.0	0.0
	60～64	69	20	49	0	29.0	71.0	0.0
	65～69	79	14	64	1	17.7	81.0	1.3
	70～74	41	8	32	1	19.5	78.0	2.4
	75～79	30	5	23	2	16.7	76.7	6.7
	80～84	11	2	7	2	18.2	63.6	18.2
	85～	12	2	10	0	16.7	83.3	0.0
総数		913	267	640	6	29.2	70.1	0.7

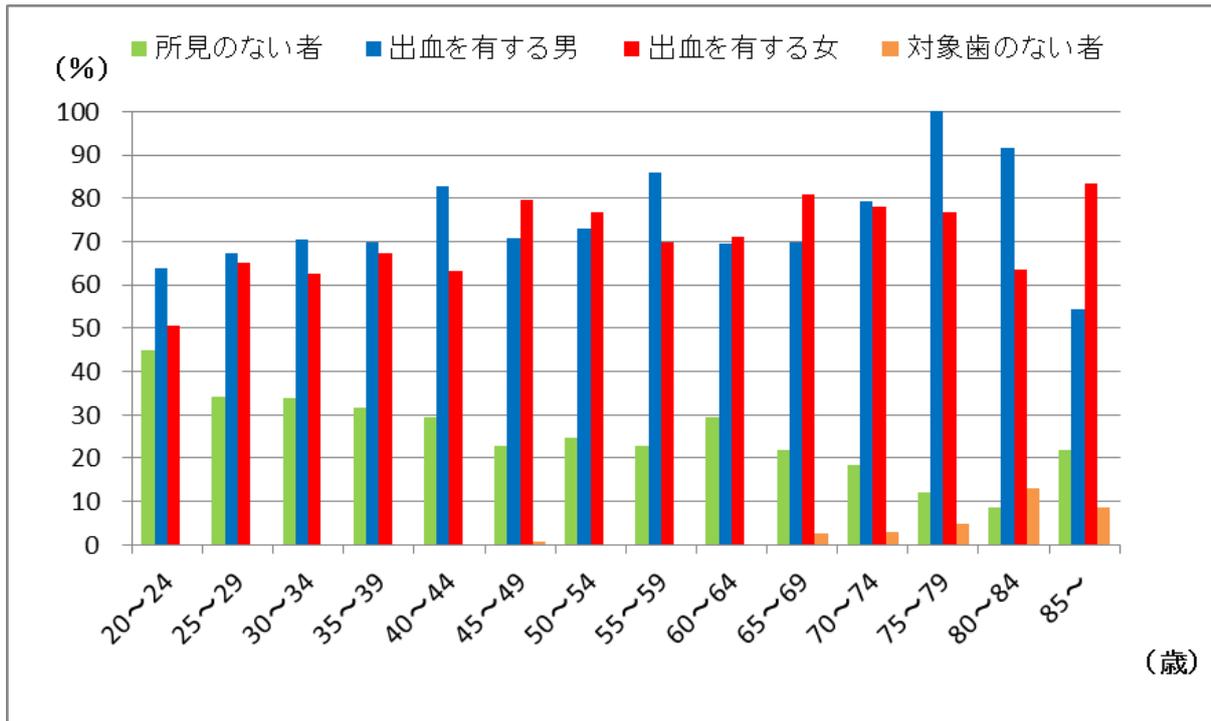


図 24 歯肉出血を有する者の割合

【GPI の判定基準変更のため、前回との比較なし】

表 18 歯肉出血を有する者【比較】

年齢階級(歳)	(%)	
	山梨平成29年	全国平成28年
総数	71.5	-
20～24	55.1	42.9
25～29	66.0	37.2
30～34	66.1	41.7
35～39	68.4	43.2
40～44	70.6	48.0
45～49	76.5	44.1
50～54	75.3	40.0
55～59	77.1	39.1
60～64	70.5	39.8
65～69	75.5	43.7
70～74	78.5	38.8
75～79	82.9	39.3
80～84	78.3	33.3
85～	69.6	33.1

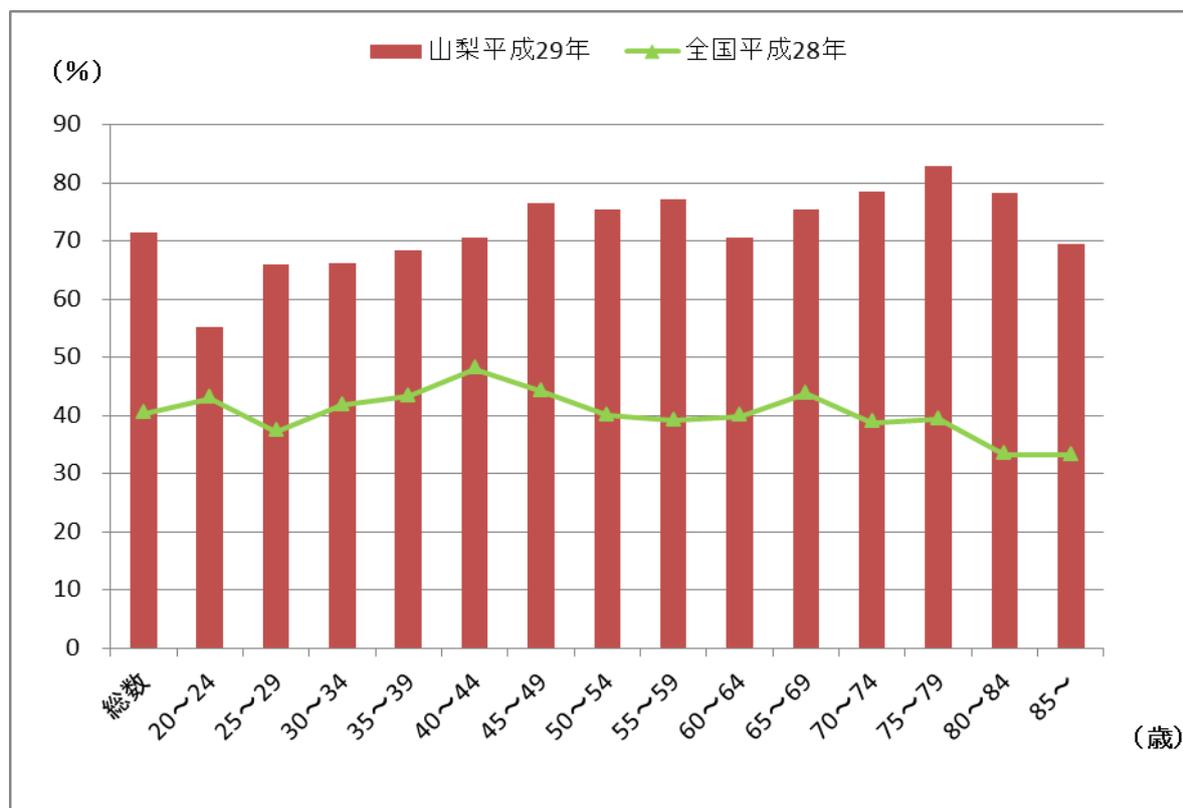


図 25 歯肉出血を有する者の割合【比較】

## 9. 歯をみがく頻度

歯ブラシの使用状況は、「毎日みがく者」は調査全体の9割以上を占めていた。「歯をみがく者」のうち、「毎日3回以上みがく者」の割合は37.2%、「毎日2回みがく者」は48.1%、「毎日1回みがく者」は11.3%、「毎日みがかない者」は1.0%だった（表19、図26）。

年齢階級別でみると、75歳以降年齢階級が上がるにつれ「毎日1回みがく者」が増加している。

前回調査と比較すると「毎日みがく者」は89.5%から96.6%となり、前回より7.1ポイント増加し、「毎日みがかない者」は3.4%から1.0%となり前回より2.4ポイント減少した（表20、図27）。

全国調査と比較すると、山梨県は「毎日みがく者」は1.3ポイント高く、「毎日みがかない者」0.9ポイント低かった。

表 19 歯ブラシの使用状況

(人)

年齢階級 (歳)	被調査者数	毎日みがかない者	総数	毎日みがく者			不詳	(再掲) 毎日2回 以上
				1回	2回	3回以上		
総数	1531	15	1479	173	736	570	37	1306
20～24	107	0	105	7	56	42	2	98
25～29	141	1	138	17	78	43	2	121
30～34	121	1	117	13	63	41	3	104
35～39	155	0	152	8	80	64	3	144
40～44	136	0	135	12	66	57	1	123
45～49	149	2	143	16	75	52	4	127
50～54	166	4	156	16	82	58	6	140
55～59	144	3	138	20	63	55	3	118
60～64	105	1	101	12	48	41	3	89
65～69	155	1	151	25	69	57	3	126
70～74	65	1	61	7	25	29	3	54
75～79	41	0	39	7	15	17	2	32
80～84	23	0	22	5	12	5	1	17
85～	23	1	21	8	4	9	1	13

(%)

年齢階級 (歳)	毎日みがかない者	総数	毎日みがく者			不詳	(再掲) 毎日2回 以上
			1回	2回	3回以上		
総数	1.0	96.6	11.3	48.1	37.2	2.4	85.3
20～24	0.0	98.1	6.5	52.3	39.3	1.9	91.6
25～29	0.7	97.9	12.1	55.3	30.5	1.4	85.8
30～34	0.8	96.7	10.7	52.1	33.9	2.5	86.0
35～39	0.0	98.1	5.2	51.6	41.3	1.9	92.9
40～44	0.0	99.3	8.8	48.5	41.9	0.7	90.4
45～49	1.3	96.0	10.7	50.3	34.9	2.7	85.2
50～54	2.4	94.0	9.6	49.4	34.9	3.6	84.3
55～59	2.1	95.8	13.9	43.8	38.2	2.1	81.9
60～64	1.0	96.2	11.4	45.7	39.0	2.9	84.8
65～69	0.6	97.4	16.1	44.5	36.8	1.9	81.3
70～74	1.5	93.8	10.8	38.5	44.6	4.6	83.1
75～79	0.0	95.1	17.1	36.6	41.5	4.9	78.0
80～84	0.0	95.7	21.7	52.2	21.7	4.3	73.9
85～	4.3	91.3	34.8	17.4	39.1	4.3	56.5

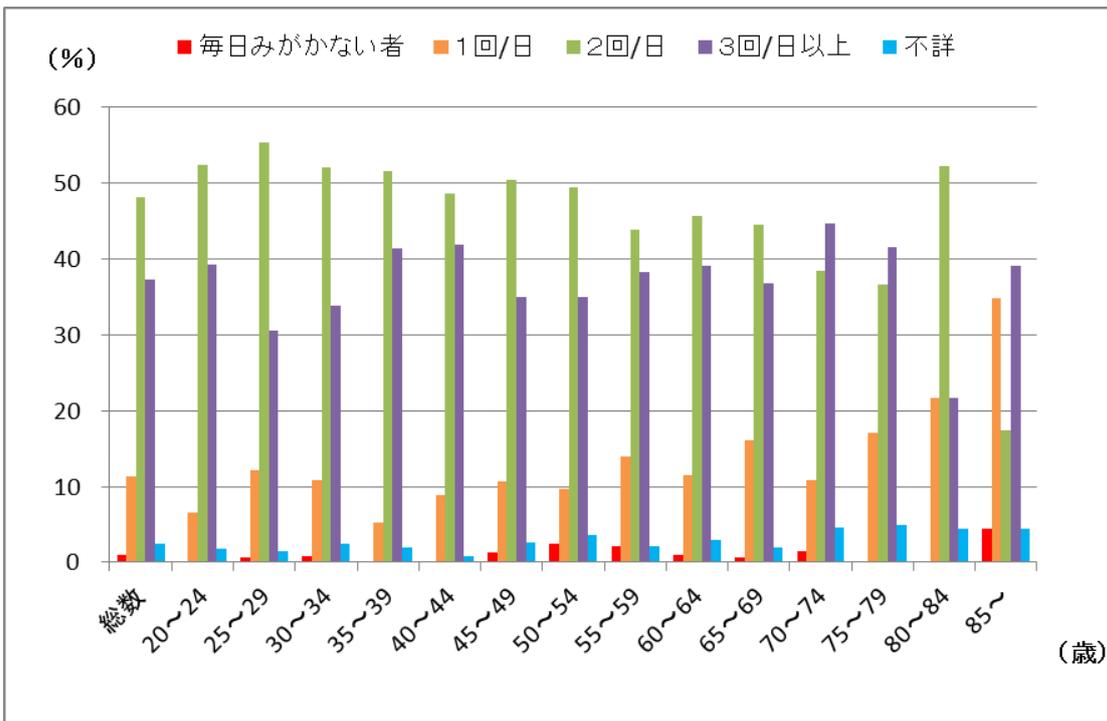


図 26 歯ブラシの使用状況

表 20 歯ブラシの使用状況【比較】

	毎日みがかない	総数	毎日みがく者		
			1回	2回	3回以上
山梨平成24年	3.4	89.5	11.8	40.4	36.9
山梨平成29年	1.0	96.6	11.3	48.1	37.2
全国平成23年	1.2	95.4	21.9	48.3	25.2
全国平成28年	1.9	95.3	18.3	49.8	27.3

\* 全国は1歳以上で調査 \*

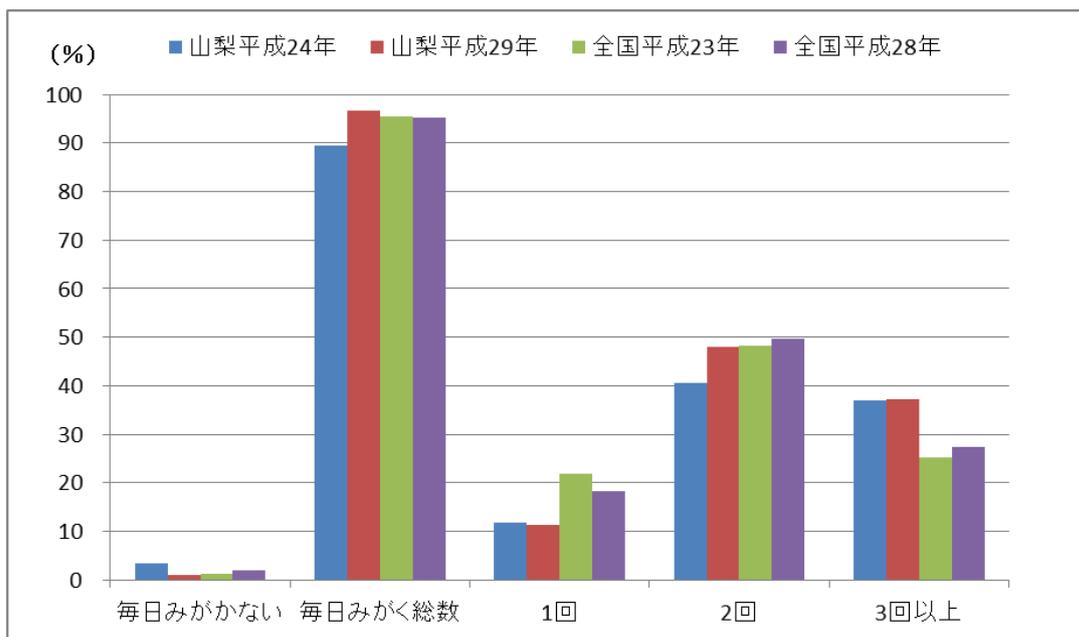


図 27 歯ブラシの使用状況【比較】

## 10. インプラントの有無

インプラントが入っている者の割合は、被調査者全体の1.8%であった（表21）。

前回調査と比べると、3.9%から1.8%に2.1ポイント減少している（表22）。これは、被調査者の若年化と高齢者の現在歯数の増加による影響が考えられる（図2、図7）。

全国調査と比較すると、全国値2.8%、山梨県1.8%で大差はない（表22）。

年齢階級別では、ばらつきが大きく評価が困難であった。

表 21 インプラントが入っている者

年齢階級 (歳)	被調査者数	(人)			(% )		
		総数	男	女	総数	男	女
総数	1531	28	10	18	1.8	0.7	1.2
20～24	107	1	0	1	0.9	0.0	0.9
25～29	141	2	1	1	1.4	0.7	0.7
30～34	121	1	0	1	0.8	0.0	0.8
35～39	155	1	0	1	0.6	0.0	0.6
40～44	136	2	0	2	1.5	0.0	1.5
45～49	149	1	1	0	0.7	0.7	0.0
50～54	166	3	2	1	1.8	1.2	0.6
55～59	144	7	2	5	4.9	1.4	3.5
60～64	105	1	1	0	1.0	1.0	0.0
65～69	155	7	3	4	4.5	1.9	2.6
70～74	65	1	0	1	1.5	0.0	1.5
75～79	41	0	0	0	0.0	0.0	0.0
80～84	23	1	0	1	4.3	0.0	4.3
85～	23	0	0	0	0.0	0.0	0.0

表 22 インプラントが入っている者【比較】

年齢階級 (歳)	山梨		全国
	平成24年	平成29年	平成28年
総数	3.9	1.8	2.8
20～24	1.3	0.9	-
25～29	2.2	1.4	-
30～34	0.0	0.8	-
35～39	5.7	0.6	-
40～44	4.0	1.5	2.0
45～49	2.1	0.7	1.5
50～54	4.3	1.8	1.4
55～59	3.1	4.9	2.8
60～64	4.4	1.0	2.3
65～69	8.4	4.5	4.6
70～74	9.1	1.5	3.7
75～79	3.0	0.0	3.4
80～84	1.3	4.3	2.7
85～	2.0	0.0	-

## 11. 顎関節の雑音を自覚する者

口を大きく開け閉めした時、顎関節の雑音を自覚する者は被調査者全体の8.8%であった。

年齢階級別で見ると、25～29歳が13.5%で最も多く、若年層での割合が高く、年齢階級が上がるにつれ、減少する傾向がある。

男女で比較すると、男性が2.8%に対して女性が6.0%と女性が3.2ポイント高い(表23)。

前回調査と比較すると、男性が14.6%から2.8%と11.8ポイント低下した。また女性が18.3%から6.0%と12.3ポイント低下した。

全国調査と比較すると、男性が8.8ポイント、女性が11.7ポイント、全国値よりも低かった(表24)。

表 23 顎関節の雑音を自覚する者の割合

年齢階級 (歳)	被験者数	(人)				(%)			
		ある総数	男	女	ある総数	男	女	なし	
総数	1531	135	43	92	8.8	2.8	6.0	91.2	
20～24	107	11	1	10	10.3	0.9	9.3	89.7	
25～29	141	19	6	13	13.5	4.3	9.2	86.5	
30～34	121	15	2	13	12.4	1.7	10.7	87.6	
35～39	155	16	7	9	10.3	4.5	5.8	89.7	
40～44	136	9	3	6	6.6	2.2	4.4	93.4	
45～49	149	13	4	9	8.7	2.7	6.0	91.3	
50～54	166	16	9	7	9.6	5.4	4.2	90.4	
55～59	144	13	2	11	9.0	1.4	7.6	91.0	
60～64	105	7	3	4	6.7	2.9	3.8	93.3	
65～69	155	12	4	8	7.7	2.6	5.2	92.3	
70～74	65	2	1	1	3.1	1.5	1.5	96.9	
75～79	41	2	1	1	4.9	2.4	2.4	95.1	
80～84	23	0	0	0	0.0	0.0	0.0	100.0	
85～	23	0	0	0	0.0	0.0	0.0	100.0	

表 24 顎関節の雑音を自覚する者の割合【比較】

年齢階級 (歳)	男				女			
	山 梨		全 国		山 梨		全 国	
	平成24年	平成29年	平成23年	平成28年	平成24年	平成29年	平成23年	平成28年
総数	14.6	2.8		11.6	18.3	6.0		17.7
20～24	18.2	0.9	21.9	23.5	28.6	9.3	28.1	41.7
25～29	31.0	4.3	24.4	27.0	28.3	9.2	35.1	26.5
30～34	22.7	1.7	30.1	15.9	31.3	10.7	27.5	35.8
35～39	19.6	4.5	25.0	16.7	21.4	5.8	28.1	29.0
40～44	27.7	2.2	19.8	25.8	29.3	4.4	18.5	25.5
45～49	25.0	2.7	21.1	18.2	13.1	6.0	23.9	31.2
50～54	16.7	5.4	17.5	18.5	15.9	4.2	20.6	14.3
55～59	5.5	1.4	24.1	14.0	15.1	7.6	15.3	19.5
60～64	12.1	2.9	17.1	5.8	21.5	3.8	14.6	16.4
65～69	12.8	2.6	10.2	9.4	11.6	5.2	13.2	15.9
70～74	2.3	1.5	5.4	10.3	12.7	1.5	9.5	10.2
75～79	6.3	2.4	5.5	9.0	10.1	2.4	6.8	9.8
80～84	3.1	0.0	3.9	5.1	10.4	0.0	6.6	8.8
85～	0.0	0.0	12.8	6.3	0.0	0.0	1.5	11.1

## 12. 顎関節に痛みを自覚する者

口を大きく開け閉めした時、顎関節に痛みを自覚する者は被調査者全体の1.6%であった。

年齢階級別でみると、35～39歳が4.5%で最も多く、男女共に70歳以降で顎関節に痛みを自覚する者はいなかった。

男女で比較すると、男性が0.5%に対して女性が1.1%と女性が0.6ポイント高く、男性は45歳以降で痛みを自覚する者はいなかった(表25)。

前回調査と比較すると、男性が1.4%から0.5%と0.9ポイント低下した。また女性は5.4%から1.1%と4.3ポイント低下した。

全国調査と比較すると男性が2.0ポイント、女性が3.1ポイント全国値よりも低かった(表26)。

表 25 顎関節に痛みを自覚する者の割合

年齢階級 (歳)	被験者数	(人)				(%)			
		ある総数	男	女	ない総数	ある総数	男	女	ない総数
総数	1531	24	7	17	1507	1.6	0.5	1.1	98.4
20～24	107	2	1	1	105	1.9	0.9	1.4	98.1
25～29	141	2	2	0	139	1.4	1.4	0.0	98.6
30～34	121	3	0	3	118	2.5	0.0	4.5	97.5
35～39	155	7	3	4	148	4.5	1.9	4.3	95.5
40～44	136	3	1	2	133	2.2	0.7	2.4	97.8
45～49	149	2	0	2	147	1.3	0.0	2.1	98.7
50～54	166	2	0	2	164	1.2	0.0	1.9	98.8
55～59	144	1	0	1	143	0.7	0.0	1.3	99.3
60～64	105	0	0	0	105	0.0	0.0	0.0	100.0
65～69	155	2	0	2	153	1.3	0.0	2.5	98.7
70～74	65	0	0	0	65	0.0	0.0	0.0	100.0
75～79	41	0	0	0	41	0.0	0.0	0.0	100.0
80～84	23	0	0	0	23	0.0	0.0	0.0	100.0
85～	23	0	0	0	23	0.0	0.0	0.0	100.0

表 26 顎関節に痛みを自覚する者の割合【比較】

年齢階級 (歳)	男				女			
	山梨		全国		山梨		全国	
	平成24年	平成29年	平成23年	平成28年	平成24年	平成29年	平成23年	平成28年
総数	1.4	0.5		2.5	5.4	1.1		—
20～24	0.0	0.9	6.3	2.9	10.5	1.4	5.3	13.9
25～29	0.0	1.4	4.4	5.4	6.9	0.0	10.4	6.1
30～34	4.9	0.0	2.7	2.3	6.2	4.5	6.7	6.3
35～39	2.0	1.9	2.9	1.5	5.6	4.3	4.8	9.7
40～44	2.2	0.7	4.9	6.2	10.0	2.4	4.8	5.7
45～49	1.7	0.0	5.3	1.3	4.9	2.1	5.2	8.0
50～54	0.0	0.0	1.0	3.7	9.4	1.9	6.3	5.0
55～59	3.7	0.0	0.9	4.0	4.2	1.3	5.9	5.2
60～64	1.1	0.0	2.1	1.4	2.2	0.0	3.2	1.9
65～69	0.0	0.0	1.2	2.9	3.5	2.5	2.2	1.2
70～74	2.3	0.0	0.5	1.6	2.6	0.0	2.1	3.1
75～79	0.0	0.0	—	1.9	4.5	0.0	0.6	0.6
80～84	0.0	0.0	1.9	1.0	4.1	0.0	2.5	1.6
85～	0.0	0.0	2.6	1.6	0.0	0.0	1.5	1.6

\* 全国は6歳以上を調査。ここでは20歳以上のみ記載 \*

### 13. 現在の歯や口の状態

現在の歯や口の状態について、被調査者全体の70.4%が「何らかの気になるところがある」と回答している。(表27、図28)。

気になるところは、「歯が痛い、しみる」が27.2%で一番多く、20～44歳では30%以上認める。次いで「歯ぐきが痛い、腫れている、出血する」で23.4%となっている。「歯が痛い、しみる」は年齢階級が上がるにつれ減少し、逆に「歯ぐきが痛い、腫れている、出血する」は年齢階級が上がるにつれ増加する。「飲み込みにくい」は30～34歳で感じている者もいる。

全国調査と比較すると「何らかの気になるところがある」は29.4ポイント、「歯が痛い、しみる」は15.0ポイント、「歯ぐきが痛い、腫れている、出血する」12.1ポイント、全国値よりも高かった(表29、図30)。

表 27 歯や口の状態について気になるところ

(人)

年齢階級 (歳)	被験者数 (人)	歯や口の状態について気になるところ									
		症状ない	総数 <sup>注2)</sup>	ある <sup>注1)</sup>						口がかわく	口臭がある
				歯が痛い、 しみる	歯ぐきが痛い、 腫れている、 出血する	噛めない ものがある	飲み込み にくい	味がわかり にくい			
総数	1531	453	1078	417	359	107	13	11	146	182	
20～24	107	38	69	39	21	2	0	0	5	3	
25～29	141	44	97	48	29	5	0	1	18	16	
30～34	121	36	85	37	21	1	2	0	15	19	
35～39	155	44	111	47	39	4	0	0	9	15	
40～44	136	41	95	51	29	3	1	1	10	8	
45～49	149	46	103	39	37	10	1	0	13	23	
50～54	166	49	117	51	34	12	0	1	11	17	
55～59	144	39	105	30	33	18	2	2	15	18	
60～64	105	30	75	24	33	8	0	1	12	25	
65～69	155	33	122	31	44	28	4	1	20	29	
70～74	65	25	40	7	12	5	0	2	7	4	
75～79	41	12	29	4	14	7	0	0	6	1	
80～84	23	8	15	3	7	2	1	2	3	2	
85～	23	8	15	6	6	2	2	0	2	2	

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

(%)

年齢階級 (歳)	歯や口の状態について気になるところ									
	症状ない	総数 <sup>注2)</sup>	ある <sup>注1)</sup>						口がかわく	口臭がある
			歯が痛い、 しみる	歯ぐきが痛い、 腫れている、 出血する	噛めない ものがある	飲み込み にくい	味がわかり にくい			
総数	29.6	70.4	27.2	23.4	7.0	0.8	0.7	9.5	11.9	
20～24	35.5	64.5	36.4	19.6	1.9	0.0	0.0	4.7	2.8	
25～29	31.2	68.8	34.0	20.6	3.5	0.0	0.7	12.8	11.3	
30～34	29.8	70.2	30.6	17.4	0.8	1.7	0.0	12.4	15.7	
35～39	28.4	71.6	30.3	0.0	2.6	0.0	0.0	5.8	9.7	
40～44	30.1	69.9	37.5	21.3	2.2	0.7	0.7	7.4	5.9	
45～49	30.9	69.1	26.2	24.8	6.7	0.7	0.0	8.7	15.4	
50～54	29.5	70.5	30.7	20.5	7.2	0.0	0.6	6.6	10.2	
55～59	27.1	72.9	20.8	22.9	12.5	1.4	1.4	10.4	12.5	
60～64	28.6	71.4	22.9	31.4	7.6	0.0	1.0	11.4	23.8	
65～69	21.3	78.7	20.0	28.4	18.1	2.6	0.6	12.9	18.7	
70～74	38.5	61.5	10.8	18.5	7.7	0.0	3.1	10.8	6.2	
75～79	29.3	70.7	9.8	34.1	17.1	0.0	0.0	14.6	2.4	
80～84	34.8	65.2	13.0	30.4	8.7	4.3	8.7	13.0	8.7	
85～	34.8	65.2	26.1	26.1	8.7	8.7	0.0	8.7	8.7	

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

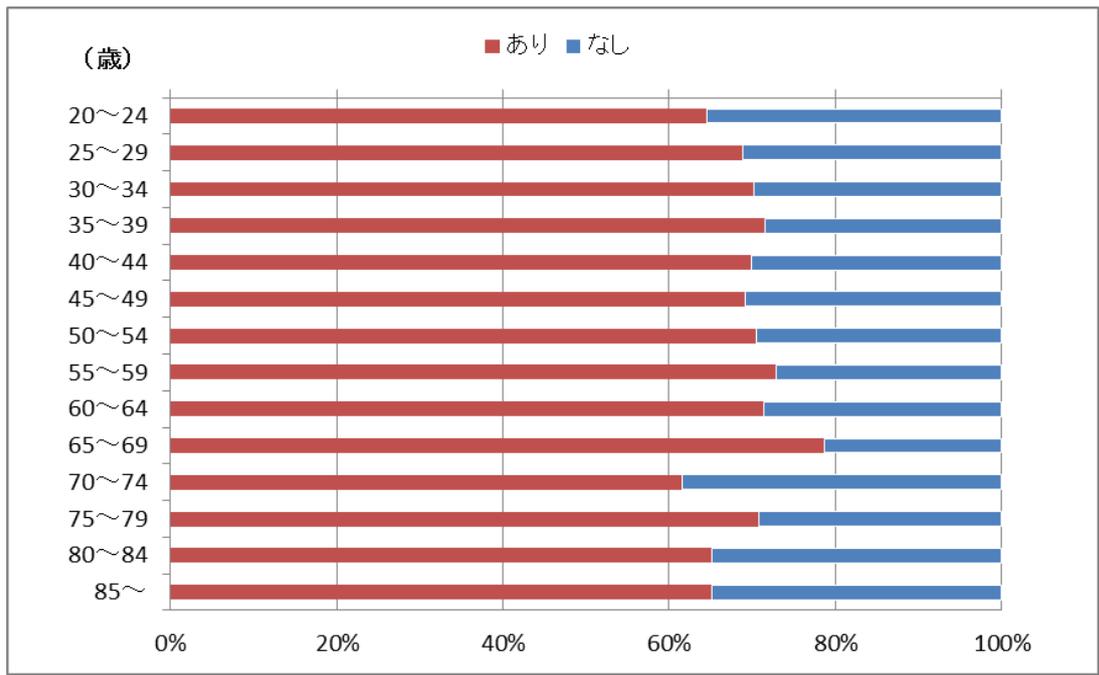


図 28 歯や口の状態について気になるところの有無

表 28 歯や口の状態について気になるところ（年齢階級別）

(人)

年齢階級 (歳)	被験者数 (人)	症状ない	歯や口の状態について気になるところ							
			ある <sup>注1)</sup>							
			総数 <sup>注2)</sup>	歯が痛い、 しみる	歯ぐきが痛い、 腫れている、 出血する	噛めない ものがある	飲み込み にくい	味がわかり にくい	口がかわく	口臭がある
総数	1531	449	1078	417	359	107	13	11	146	182
20～24	107	38	69	39	21	2	0	0	5	3
25～34	262	80	182	85	50	6	2	1	33	35
35～44	291	81	206	98	68	7	1	1	19	23
45～54	315	95	220	90	71	22	1	1	24	40
55～64	249	69	180	54	66	26	2	3	27	43
65～74	220	58	162	38	56	33	4	3	27	33
75～84	64	20	44	7	21	9	1	2	9	3
85～	23	8	15	6	6	2	2	0	2	2

注1)複数回答可

注2)いずれか1つでもある者

(%)

年齢階級 (歳)	症状ない	歯や口の状態について気になるところ							
		ある <sup>注1)</sup>							
		総数 <sup>注2)</sup>	歯が痛い、 しみる	歯ぐきが痛い、 腫れている、 出血する	噛めない ものがある	飲み込み にくい	味がわかり にくい	口がかわく	口臭がある
総数	29.3	70.4	27.2	23.4	7.0	0.8	0.7	9.5	11.9
20～24	35.5	64.5	36.4	19.6	1.9	0.0	0.0	4.7	2.8
25～34	30.5	69.5	32.4	19.1	2.3	0.8	0.4	12.6	13.4
35～44	27.8	70.8	33.7	23.4	2.4	0.3	0.3	6.5	7.9
45～54	30.2	69.8	28.6	22.5	7.0	0.3	0.3	7.6	12.7
55～64	27.7	72.3	21.7	26.5	10.4	0.8	1.2	10.8	17.3
65～74	26.4	73.6	17.3	25.5	15.0	1.8	1.4	12.3	15.0
75～84	31.3	68.8	10.9	32.8	14.1	1.6	3.1	14.1	4.7
85～	34.8	65.2	26.1	26.1	8.7	8.7	0.0	8.7	8.7

注1)複数回答可

注2)いずれか1つでもある者

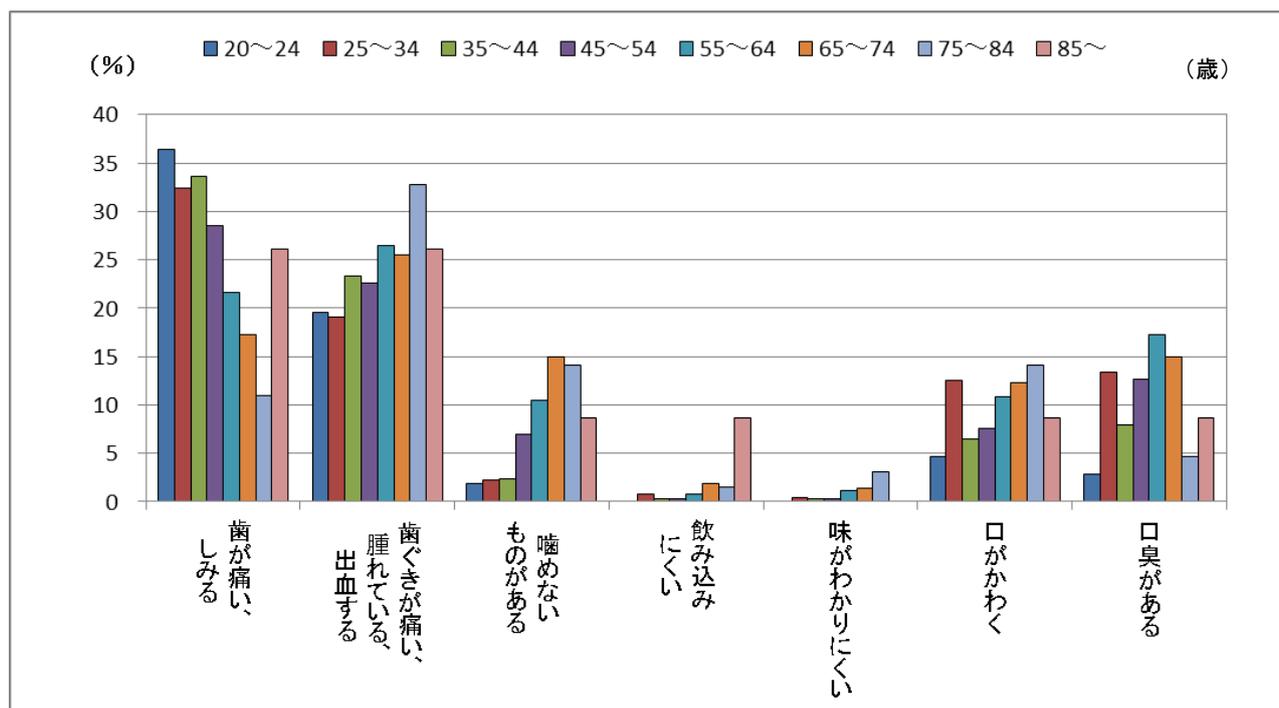


図 29 歯や口の状態について気になるところ（年齢階級別）

【調査方法が異なるため、前回との比較なし】

表 29 歯や口の状態について気になるところ【比較】

年齢階級(歳)	総数	歯が痛い、しみる	歯ぐきが痛い、腫れている、出血する	噛めないものがある	飲み込みにくい	味がわかりにくい	口がかわく	口臭がある
全国平成28年	41.0	12.2	11.3	7.0	1.3	1.1	8.5	9.8
山梨平成29年	70.4	27.2	23.4	7.0	0.8	0.7	9.5	11.9

(%)

\*全国は1歳から調査\*

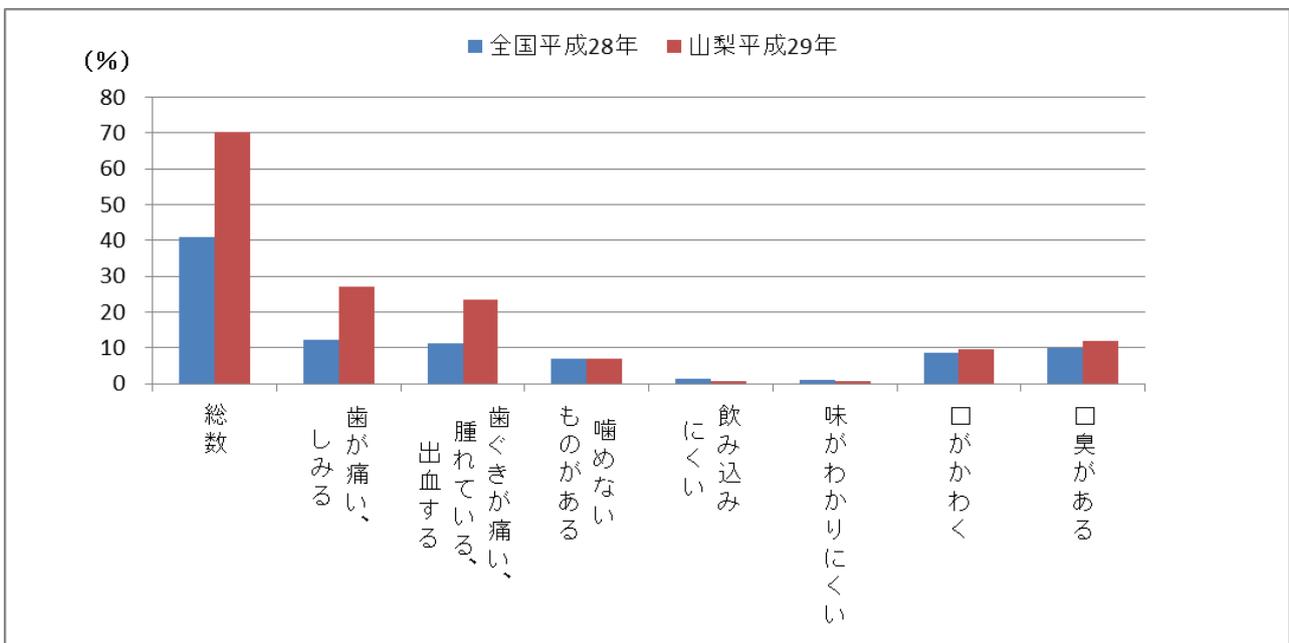


図 30 歯や口の状態について気になるところ【比較】

## 14. 歯石の状態

歯石の付着は被調査者全体の74.6%で認められた。

年齢階級別で見ると、全ての年齢階級で6割以上の歯石の付着を認めた。

男女で比較すると、男性が79.6%に対し、女性は71.2%と、男性が8.4ポイント高くなっている（表30、図31）。

前回調査では調査項目にないため、比較できなかった。

全国調査と比較すると、全国値は37.0%に対し、山梨県は74.6%と37.6ポイントも高く、2倍程、歯石の付着が多く大差を認めた（表31、図32）。これは、「歯肉出血を有する者」との関連を認めた（図25）。

表 30 歯石の付着の有無

	年齢階級 (歳)	被調査者数	歯石の付着の有無(人)		歯石の付着の有無(%)	
			あり	なし	あり	なし
総 数	総数	1531	1142	389	74.6	25.4
	20～24	107	68	39	63.6	36.4
	25～29	141	106	35	75.2	24.8
	30～34	121	88	33	72.7	27.3
	35～39	155	119	36	76.8	23.2
	40～44	136	102	34	75.0	25.0
	45～49	149	107	42	71.8	28.2
	50～54	166	137	29	82.5	17.5
	55～59	144	106	38	73.6	26.4
	60～64	105	80	25	76.2	23.8
	65～69	155	117	38	75.5	24.5
	70～74	65	45	20	69.2	30.8
	75～79	41	30	11	73.2	26.8
	80～84	23	20	3	87.0	13.0
	85～	23	17	6	73.9	26.1
男	総数	618	492	126	79.6	20.4
	20～24	36	27	9	75.0	25.0
	25～29	61	46	15	75.4	24.6
	30～34	54	44	10	81.5	18.5
	35～39	63	50	13	79.4	20.6
	40～44	52	46	6	88.5	11.5
	45～49	55	40	15	72.7	27.3
	50～54	63	56	7	88.9	11.1
	55～59	64	52	12	81.3	18.8
	60～64	36	29	7	80.6	19.4
	65～69	76	57	19	75.0	25.0
	70～74	24	19	5	79.2	20.8
	75～79	11	8	3	72.7	27.3
	80～84	12	9	3	75.0	25.0
	85～	11	9	2	81.8	18.2
女	総数	913	650	263	71.2	28.8
	20～24	71	41	30	57.7	42.3
	25～29	80	60	20	75.0	25.0
	30～34	67	44	23	65.7	34.3
	35～39	92	69	23	75.0	25.0
	40～44	84	56	28	66.7	33.3
	45～49	94	67	27	71.3	28.7
	50～54	103	81	22	78.6	21.4
	55～59	80	54	26	67.5	32.5
	60～64	69	51	18	73.9	26.1
	65～69	79	60	19	75.9	24.1
	70～74	41	26	15	63.4	36.6
	75～79	30	22	8	73.3	26.7
	80～84	11	11	0	100.0	0.0
	85～	12	8	4	66.7	33.3

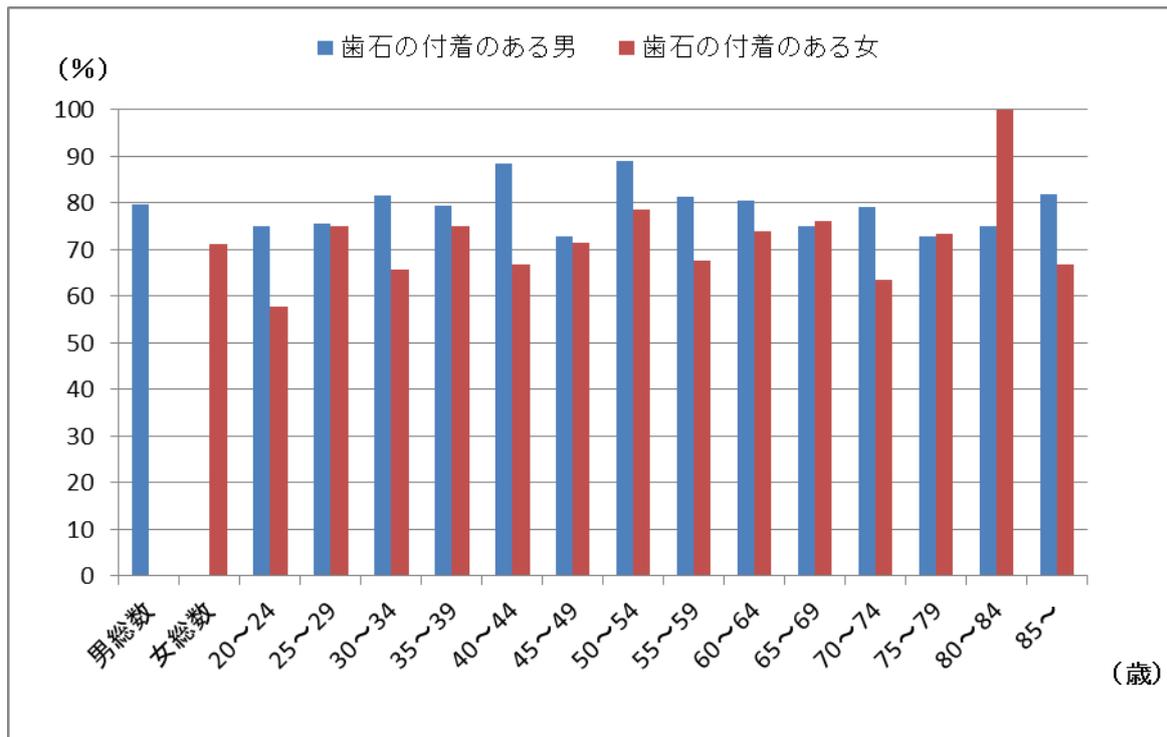


図 31 歯石の付着の有無

【前回との比較なし】

表 31 歯石の付着の有無【比較】

年齢階級(歳)	全国平成28年	山梨平成29年
総数	37.0	74.6
20～24	41.4	63.6
25～29	31.4	75.2
30～34	28.1	72.7
35～39	40.0	76.8
40～44	40.9	75.0
45～49	40.6	71.8
50～54	44.7	82.5
55～59	34.9	73.6
60～64	41.8	76.2
65～69	40.3	75.5
70～74	34.6	69.2
75～79	37.6	73.2
80～84	31.4	87.0
85～	29.1	73.9

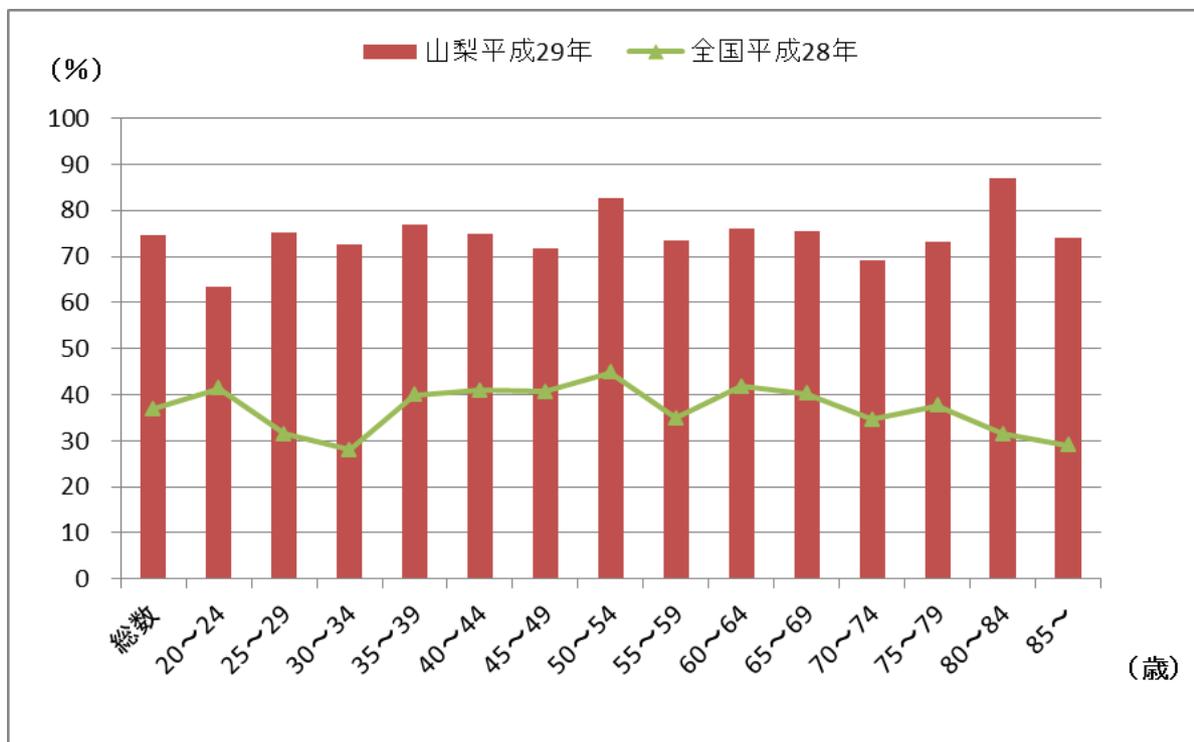


図 32 歯石の付着の有無【比較】

## 15. 過去 1 年間の歯科医院の受診状況

過去 1 年間に歯科医院を受診した者は被調査者全体で 70.5% 認めた。

年齢階級別で見ると、20～24 歳が 58.9% で最も低く、年齢階級が上がるにつれ受診率は増加し、75～79 歳が 82.9% で最も高い。(表 32、図 33)。

前回調査の「定期的に歯科検診を受けていますか」の質問とは比較できない。

また、全国調査では調査項目にないため、比較できない。

この調査は歯科診療所受診者を調査客体としているため、注意が必要である。

表 32 過去1年間の歯科医院の受診状況

年齢階級 (歳)	被調査者数	(人)			(%)	
		している	していない	不明	している	していない
総数	1531	1080	413	38	70.5	27.0
20～24	107	63	44	0	58.9	41.1
25～29	141	92	45	4	65.2	31.9
30～34	121	76	43	2	62.8	35.5
35～39	155	96	54	5	61.9	34.8
40～44	136	92	40	4	67.6	29.4
45～49	149	101	43	5	67.8	28.9
50～54	166	118	44	4	71.1	26.5
55～59	144	113	29	2	78.5	20.1
60～64	105	83	20	2	79.0	19.0
65～69	155	124	27	4	80.0	17.4
70～74	65	53	9	3	81.5	13.8
75～79	41	34	6	1	82.9	14.6
80～84	23	18	4	1	78.3	17.4
85～	23	17	5	1	73.9	21.7

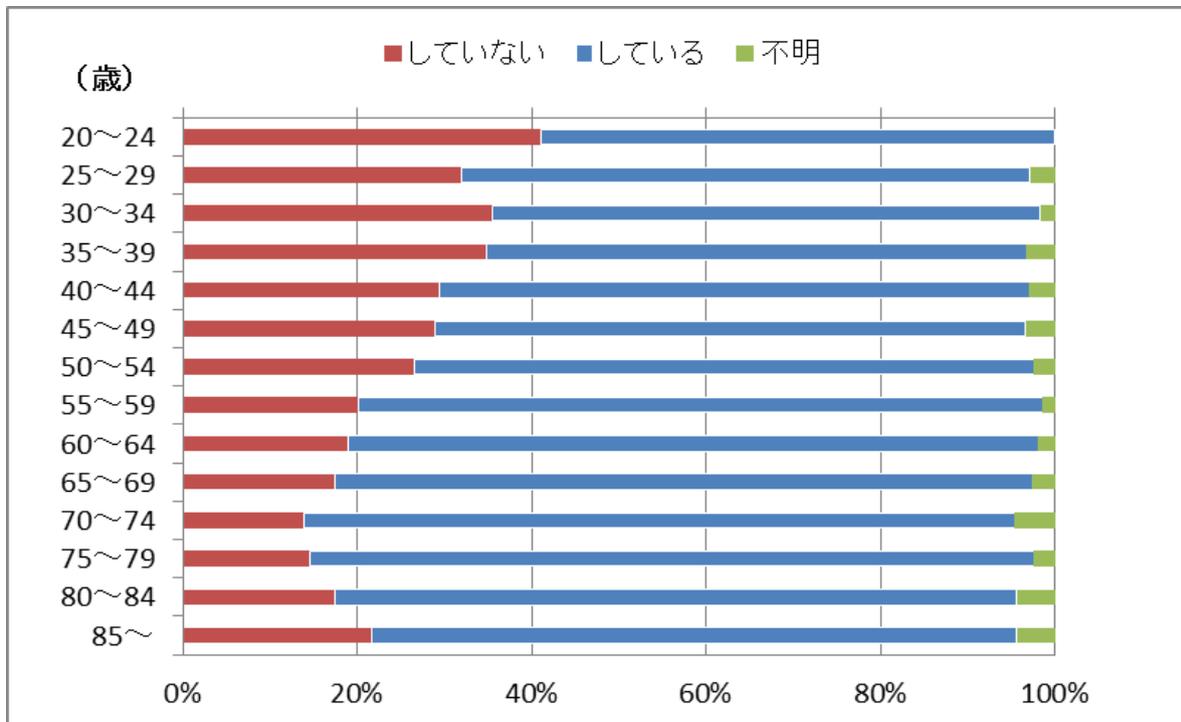


図 33 過去1年間の歯科医院の受診状況

表 33 平成 24 年 過去 1 年間の歯科検診の受診状況【参考】

(%)

年齢階級 (歳)	している	していない
総 数	43.9	56.1
20～24	33.8	66.3
25～29	34.8	65.2
30～34	30.0	70.0
35～39	45.1	54.9
40～44	41.9	58.1
45～49	43.1	56.9
50～54	42.6	57.4
55～59	46.5	53.5
60～64	53.7	46.3
65～69	54.2	45.8
70～74	57.3	42.7
75～79	40.2	59.8
80～84	43.8	56.3
85～	22.4	77.6

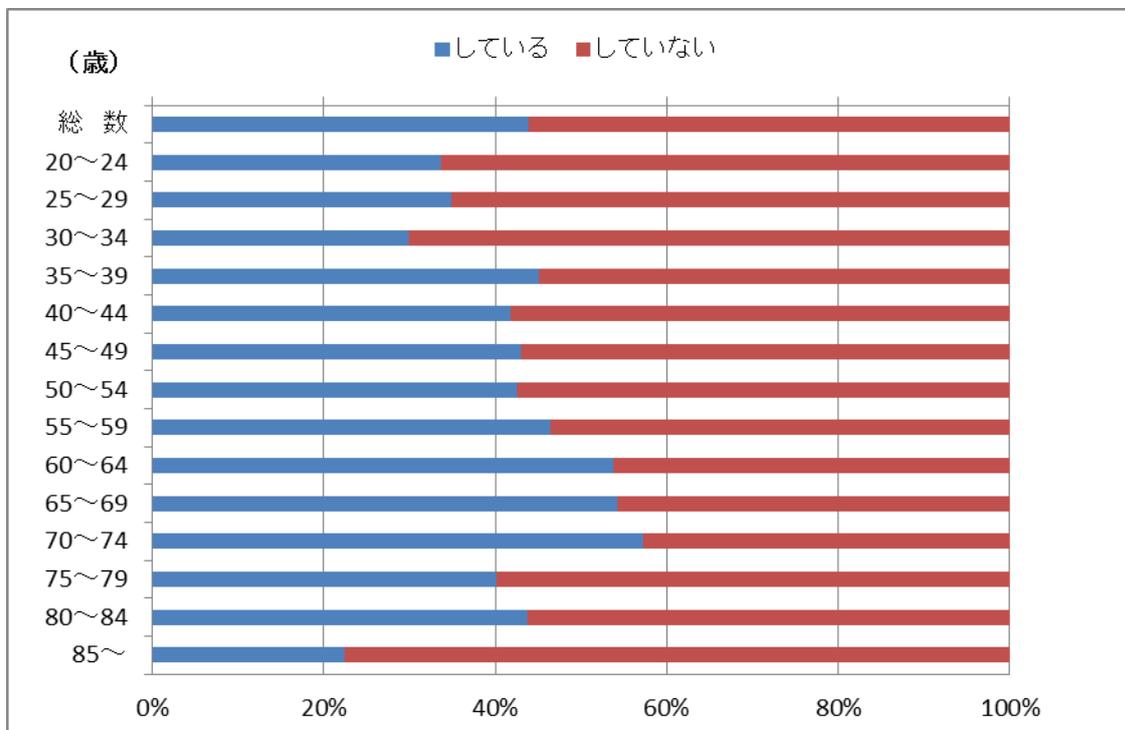


図 34 平成 24 年 過去 1 年間の歯科検診の受診【参考】

【全国調査はないため、比較なし】

## 16. 歯や口の清掃状況

歯ブラシを用いた歯みがきに加えて行う歯や口の清掃を行っている者は、被調査者全体の68.6%で認めた。そのうち、デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている者は、全体の54.1%、舌の清掃を行っている者は19.4%だった。

年齢階級別でみると、デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている者は、40歳以降で5割を超えていた。65～69歳が73.5%で最も多く、20～24歳が31.8%で最も低く、41.7ポイント差を認めた（表34、図36）。

男女で比較すると、デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている男性は41.3%に対して女性が62.8%と21.5ポイント女性の方が高い。

前回調査と比較すると、デンタルフロスや歯間ブラシを用いた歯間部清掃を行っている者は、47.4%から54.1%と6.7ポイント増加し、特に55歳以降で増加している。

また、全国調査と比べると山梨県は14.9ポイント高く、全ての年齢階級で全国値よりも高く、特に60歳以降でその差が拡大している（表35、図37）。

表 34 歯や口の清掃状況

(人)

	年齢階級 (歳)	被調査者数	歯ブラシを用いた歯みがきに加えて行う歯や口の清掃				
			総数 <sup>注2)</sup>	行っている <sup>注1)</sup>			行って いない
				歯間部の清掃	舌の清掃	その他	
総 数	総数	1531	1050	828	297	498	481
	20～24	107	47	34	17	60	60
	25～29	141	90	56	41	51	51
	30～34	121	72	53	34	49	49
	35～39	155	103	72	41	53	52
	40～44	136	98	72	37	44	38
	45～49	149	97	82	28	52	52
	50～54	166	115	92	21	51	51
	55～59	144	100	84	26	44	44
	60～64	105	82	75	16	23	23
	65～69	155	126	114	18	29	29
	70～74	65	52	45	9	15	13
	75～79	41	34	28	7	7	7
	80～84	23	13	10	1	10	10
	85～	23	21	11	1	10	2
男	総数	618	350	255	92	276	268
	20～24	36	10	6	4	27	26
	25～29	61	29	16	14	32	32
	30～34	54	25	14	12	29	29
	35～39	63	29	17	9	35	34
	40～44	52	32	22	15	21	20
	45～49	55	29	26	4	26	26
	50～54	63	39	28	8	24	24
	55～59	64	39	30	10	25	25
	60～64	36	20	16	4	16	16
	65～69	76	55	48	9	21	21
	70～74	24	18	16	1	6	6
	75～79	11	10	9	0	1	1
	80～84	12	4	3	1	8	8
	85～	11	11	4	1	5	0
女	総数	913	710	573	205	222	203
	20～24	71	37	28	13	33	34
	25～29	80	61	40	27	19	19
	30～34	67	47	39	22	20	20
	35～39	92	74	55	32	18	18
	40～44	84	66	50	22	23	18
	45～49	94	78	56	24	26	16
	50～54	103	76	64	13	27	27
	55～59	80	61	54	16	19	19
	60～64	69	62	59	12	7	7
	65～69	79	71	66	9	8	8
	70～74	41	34	29	8	9	7
	75～79	30	24	19	7	6	6
	80～84	11	9	7	0	2	2
	85～	12	10	7	0	5	2

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

(%)

	年齢階級 (歳)	歯ブラシを用いた歯みがきに加えて行う歯や口の清掃				
		総数 <sup>注2)</sup>	行っている <sup>注1)</sup>			行って いない
			歯間部の清掃	舌の清掃	その他	
総 数	総数	68.6	54.1	19.4	32.5	31.4
	20～24	43.9	31.8	15.9	56.1	56.1
	25～29	63.8	39.7	29.1	36.2	36.2
	30～34	59.5	43.8	28.1	40.5	40.5
	35～39	66.5	46.5	26.5	34.2	33.5
	40～44	72.1	52.9	27.2	32.4	27.9
	45～49	65.1	55.0	18.8	34.9	34.9
	50～54	69.3	55.4	12.7	30.7	30.7
	55～59	69.4	58.3	18.1	30.6	30.6
	60～64	78.1	71.4	15.2	21.9	21.9
	65～69	81.3	73.5	11.6	18.7	18.7
	70～74	80.0	69.2	13.8	23.1	20.0
	75～79	82.9	68.3	17.1	17.1	17.1
	80～84	56.5	43.5	4.3	43.5	43.5
85～	91.3	47.8	4.3	43.5	8.7	
男	総数	56.6	41.3	14.9	44.7	43.4
	20～24	27.8	16.7	11.1	75.0	72.2
	25～29	47.5	26.2	23.0	52.5	52.5
	30～34	46.3	25.9	22.2	53.7	53.7
	35～39	46.0	27.0	14.3	55.6	54.0
	40～44	61.5	42.3	28.8	40.4	38.5
	45～49	52.7	47.3	7.3	47.3	47.3
	50～54	61.9	44.4	12.7	38.1	38.1
	55～59	60.9	46.9	15.6	39.1	39.1
	60～64	55.6	44.4	11.1	44.4	44.4
	65～69	72.4	63.2	11.8	27.6	27.6
	70～74	75.0	66.7	4.2	25.0	25.0
	75～79	90.9	81.8	0.0	9.1	9.1
	80～84	33.3	25.0	8.3	66.7	66.7
85～	100.0	36.4	9.1	45.5	0.0	
女	総数	77.8	62.8	22.5	24.3	22.2
	20～24	52.1	39.4	18.3	46.5	47.9
	25～29	76.3	50.0	33.8	23.8	23.8
	30～34	70.1	58.2	32.8	29.9	29.9
	35～39	80.4	59.8	34.8	19.6	19.6
	40～44	78.6	59.5	26.2	27.4	21.4
	45～49	83.0	59.6	25.5	27.7	17.0
	50～54	73.8	62.1	12.6	26.2	26.2
	55～59	76.3	67.5	20.0	23.8	23.8
	60～64	89.9	85.5	17.4	10.1	10.1
	65～69	89.9	83.5	11.4	10.1	10.1
	70～74	82.9	70.7	19.5	22.0	17.1
	75～79	80.0	63.3	23.3	20.0	20.0
	80～84	81.8	63.6	0.0	18.2	18.2
85～	83.3	58.3	0.0	41.7	16.7	

注1) 複数回答可

注2) いずれか1つでもある者

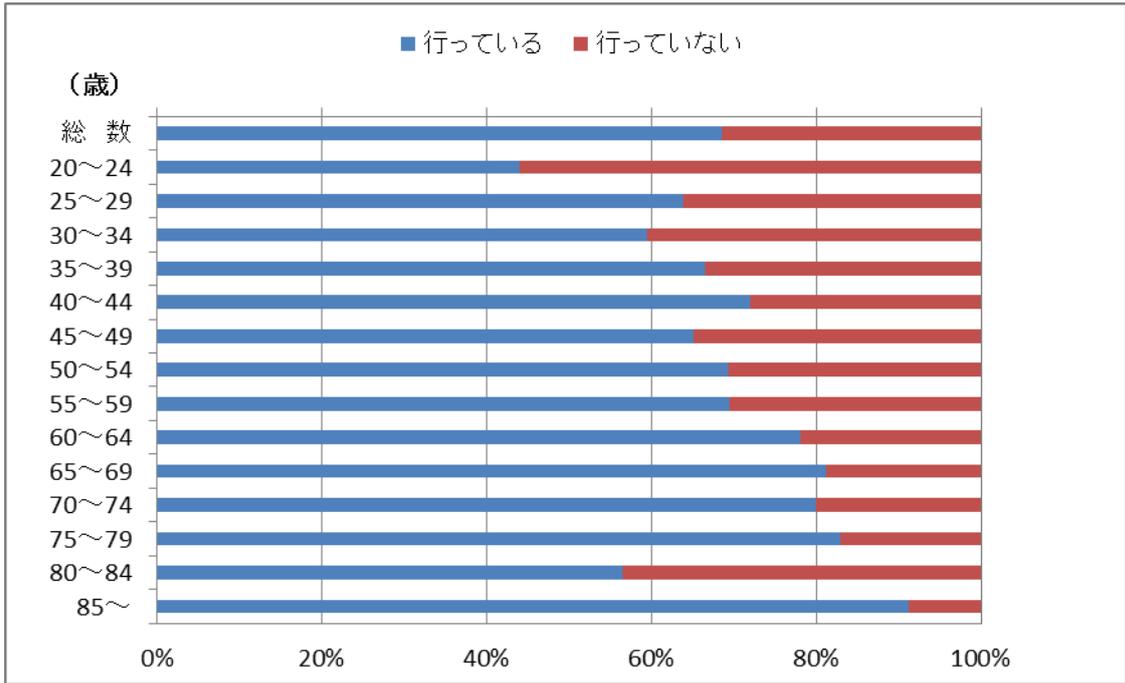


図 35 歯ブラシを用いた歯みがきに加えて行う歯や口の清掃

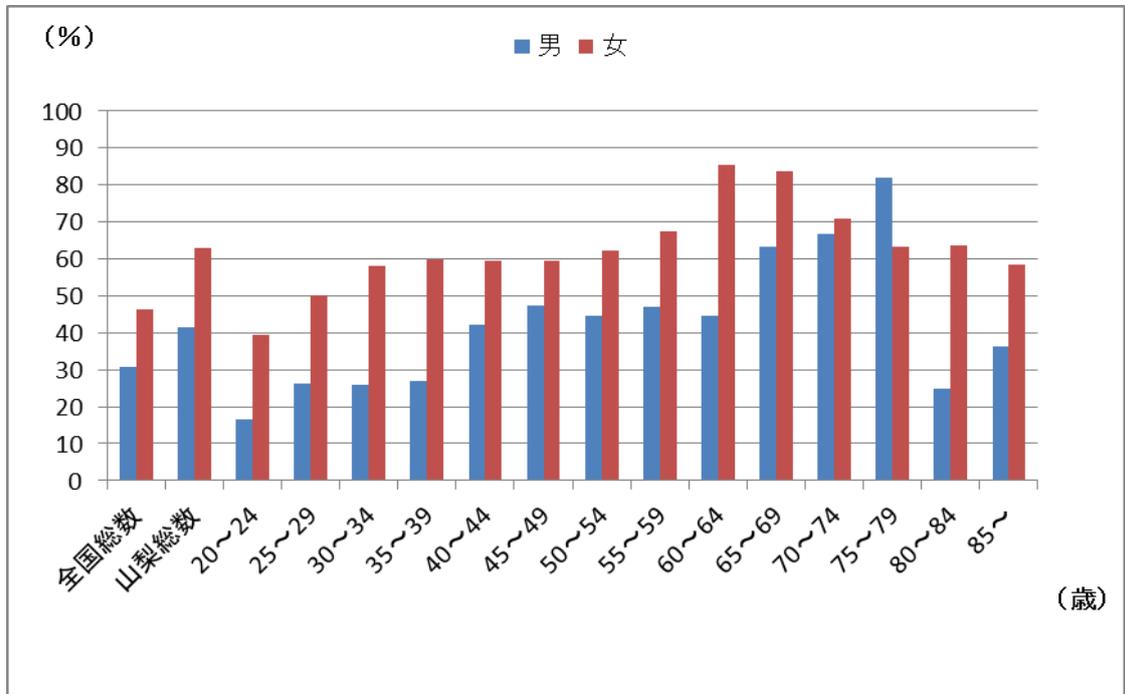


図 36 歯ブラシを用いた歯みがきに加えて行う歯や口の清掃

表 35 デンタルフロスや歯間ブラシを使った歯間部清掃を行っている者【比較】

年齢階級(歳)	山梨		全国
	平成24年	平成29年	平成28年
総数	47.4	54.1	39.2
20～24	22.2	31.8	20.4
25～29	40.4	39.7	30.8
30～34	38.2	43.8	33.8
35～39	50.0	46.5	40.8
40～44	53.8	52.9	46.0
45～49	55.6	55.0	45.7
50～54	57.0	55.4	43.1
55～59	55.0	58.3	51.9
60～64	54.8	71.4	51.0
65～69	56.7	73.5	49.7
70～74	50.0	69.2	46.6
75～79	29.3	68.3	45.1
80～84	40.0	43.5	34.3
85～	27.5	47.8	22.4

\* 全国は1歳以上を調査、20歳以上でまとめ\*

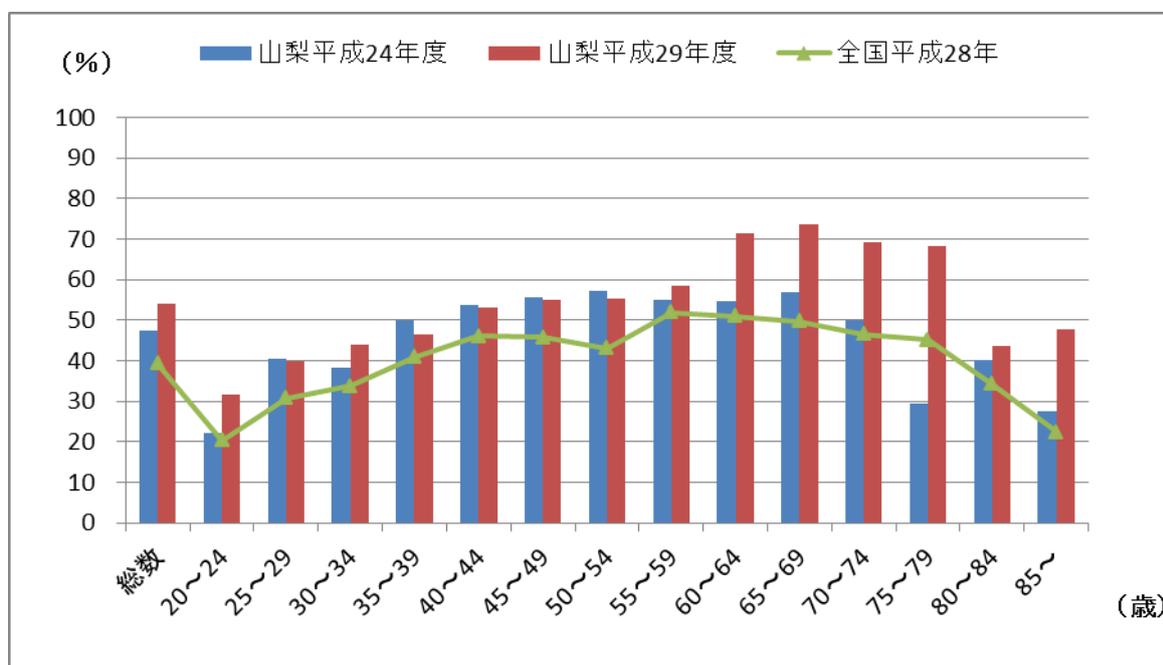


図 37 デンタルフロスや歯間ブラシを使った歯間部清掃を行っている者【比較】

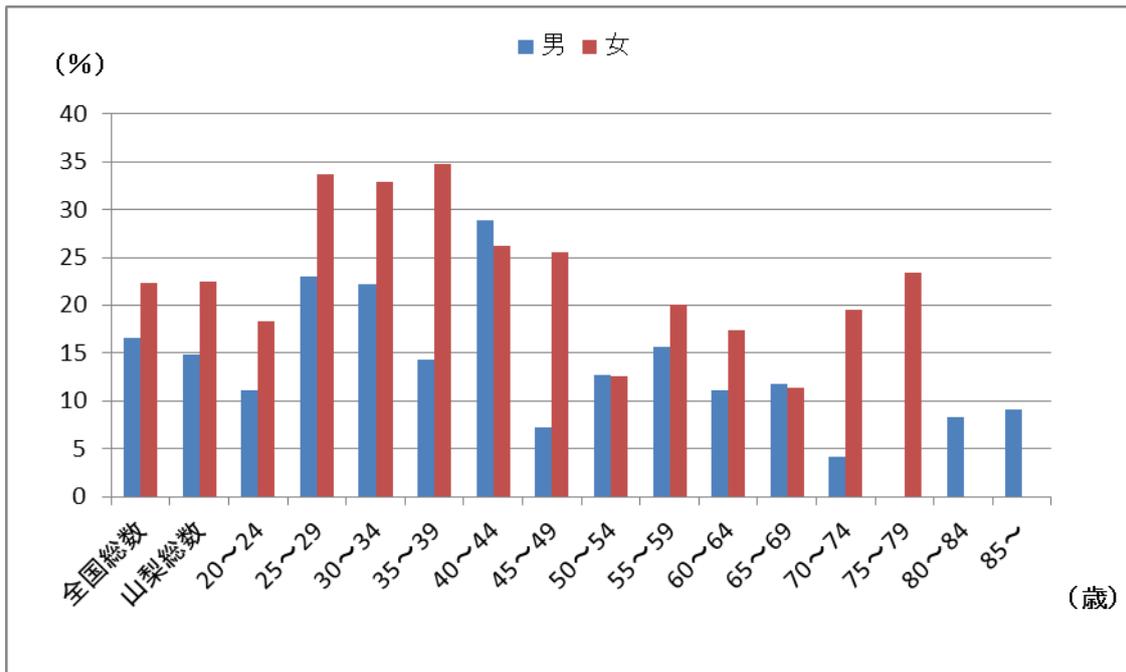


図 38 舌の清掃を行っている者

表 36 舌の清掃を行っている者【比較】

年齢階級(歳)	全国平成28年	山梨平成29年
総数	19.7	19.4
20～24	20.4	15.9
25～29	33.1	29.1
30～34	28.8	28.1
35～39	26.3	26.5
40～44	28.3	27.2
45～49	22.6	18.8
50～54	20.0	12.7
55～59	18.6	18.1
60～64	16.8	15.2
65～69	20.6	11.6
70～74	22.0	13.8
75～79	20.5	17.1
80～84	18.7	4.3
85～	13.0	4.3

\*全国は1歳以上を調査\*  
\*山梨平成24年はなし\*

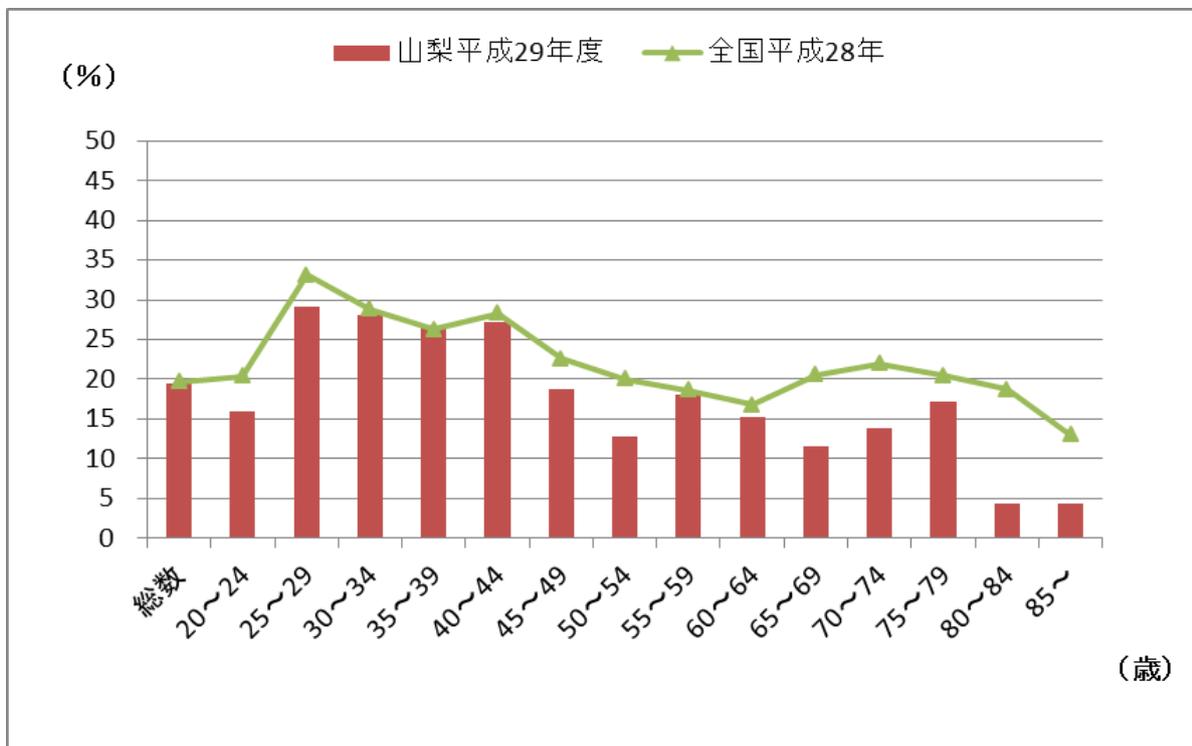


図 39 舌の清掃を行っている者【比較】